

第3次薩摩川内市 生涯学習推進計画



薩 摩 川 内 市

ごあいさつ

近年、少子化の進行、人口減少社会の到来、グローバル化の進展、環境問題の深刻化、多発する自然災害など本市を取りまく社会経済情勢は大きく変化しつつあります。市民の価値観や学習ニーズも多様化しており、さらに、人生100年時代と言われる長寿化の中では、多様で複雑化する課題と向き合いながら、一人ひとりがより豊かな人生を送ることができる持続可能な社会づくりを進めるため、住民自ら担い手として地域運営に主体的に関わっていくことが重要であり、生涯学習が果たす役割はますます大きくなっています。



また、生活の質をより豊かにする点においても生涯学習は重要であり、「いつでも、どこでも、だれでも」気軽に参加し学べるような学習機会の拡大と、学びの場の確保が求められています。

本市では、平成27年に「生涯学習推進計画」を策定し、生涯学習の基盤整備や学習機会の充実など、生涯学習推進施策に積極的に取り組んで参りました。この度、本計画が令和元年度をもって終了することに伴い、これまでの成果検証と市民アンケート、昨今の社会情勢や現代的・地域的課題を踏まえた新たな計画として「第3次生涯学習推進計画」を策定いたしました。

この計画は、「心豊かな学習社会の形成」、「学びを豊かにする環境づくり」、「多様な学習への対応」、「推進体制の充実」を大きなテーマに掲げてあります。本計画に基づき、地区コミュニティセンターなどを拠点として、市民の皆様と協働意識のもと、「学び・活かし・繋げる」生涯学習社会の実現に向け、生涯学習推進本部を中心に、各種施策を推進し、本市の将来都市像であります、「人と地域が躍動し 安心と活力のあるまち薩摩川内」の実現を目指し、市といたしましても積極的に取り組んで参ります。

最後に、この計画策定に当たり、貴重な御意見や御提言をいただきました計画策定委員の皆様にご心から感謝申し上げます。

令和2年6月

薩摩川内市長 岩 切 秀 雄

薩摩川内市民憲章

(平成17年1月1日 制定)

美しい自然と、古い歴史を誇りとする
わたしたち薩摩川内市民は、
やさしくすれば、心はかよう。
はなしをすれば、だれでもわかる。
考えさえすれば、みちはひらける。
やりさえすれば、かならずできる。
という信条をもって
明るく豊かなまちをつくります。

市 章

(平成17年1月1日 制定)



薩摩川内市の頭文字のSと川内川の形状を組み合わせたデザインである。

緑は田園と山々の自然のやすらぎを、青は海、川、湖など水のうるおいを表わす。

広い面積を有する薩摩川内市が一体となって地域力・都市力を発揮し、明るい未来に向けて力強く躍動する姿を表現したものである。

目 次

計画の骨子

第1章 生涯学習推進計画の策定に当たって	1
1 計画策定の背景	2
2 計画策定の目的	3
3 計画の位置付け	3
4 計画の期間	3
第2章 生涯学習をめぐる現状と課題	4
1 本市の現状	5
2 本市の課題	6
第3章 基本理念	8
1 基本理念と目標	9
2 計画推進のための基本的視点	10
第4章 計画の施策内容	12
第1節 心豊かな学習社会の形成	13
1 ライフステージに応じた学習の推進	13
2 健康・スポーツ・レクリエーション活動の推進	20
3 市民の主体的な学習活動の推進	23
第2節 学びを豊かにする環境づくり	27
1 リーダー（キーパーソン）の役割と仕組みづくりの推進	27
2 ネットワークを活用した学習の推進	30
3 学習施設などの機能充実	32
第3節 多様な学習への対応	35
1 地域における福祉の推進	35
2 青少年の健全育成を進める学習活動の推進	37
3 男女共同参画を進めるための学習の推進	41
4 障害者の学びを進める学習活動の推進	43
5 国際化に対応した学習の推進	44
6 環境教育・学習の推進	46
7 安全・安心のまちづくりを進める学習の推進	48
8 家庭教育・学習の推進	51
9 地域の資源を活用した学習の推進	53
第4節 推進体制の充実	56
1 学習推進体制の充実	56

資料編	5 8
生涯学習に関する市民アンケートの分析	5 9
薩摩川内市生涯学習推進体制	7 1
生涯学習の拠点施設	7 2
生涯学習の拠点施設分布	7 3
事業計画の所管など	7 4
生涯学習推進計画策定委員会委員名簿	7 8

計画の骨子

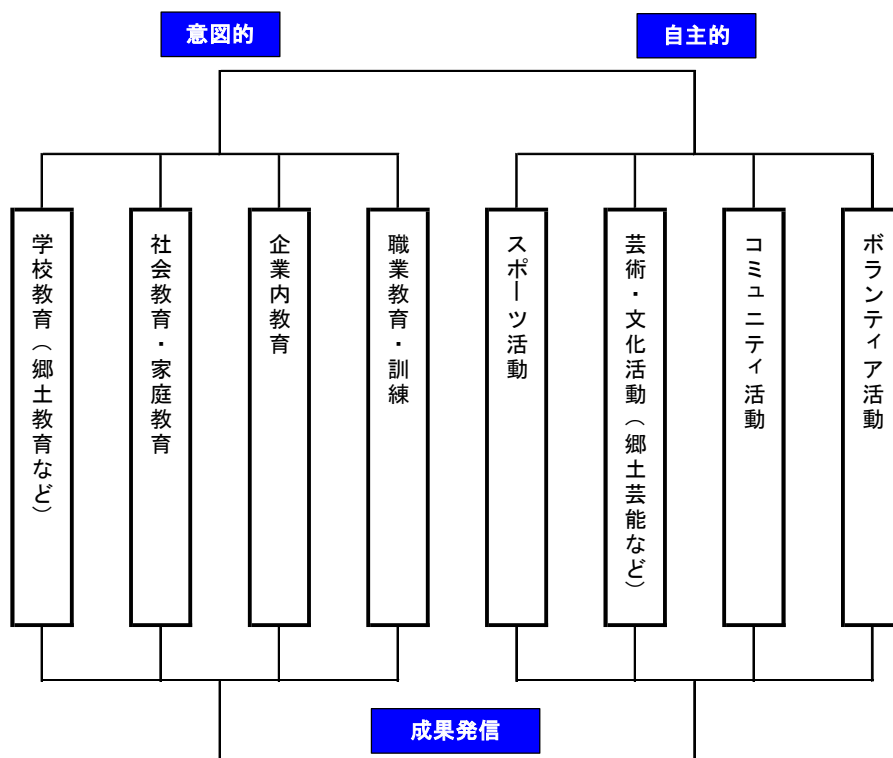
生涯学習は、市民一人ひとりが、「いつでも、どこでも、だれでも」主体的に生涯のあらゆる時期を通じて行う様々な学習をいい、豊かで生きがいのある充実した生活の創造を目指すものです。その前提には、一人ひとりの人権を尊重するという考えが大切にされています。

また、学ぶ内容がその時々で変化し、その一つひとは継続的学びではなくても、個々の学習スタイルで学び続ける姿勢が大切になります。

生涯学習には、学校教育、社会教育、企業内教育、職業教育・訓練、公民館などの場において行われる意図的な学習のみならず、スポーツや芸術・文化活動、コミュニティ活動、ボランティア活動などのような、必ずしも学習という「かたち」では意識されていないけれども自主的に行われている活動、更には日常経験や周りの環境と触れ合う中で偶然何かを学ぶといった、意識せずにしている学習まで、広範囲のものが含まれます。

一方、学んだ人が、学習の「受け手」ととどまらず、社会の「創り手」としてその成果を社会に広げ発信していく（還元していく）過程もまた、生涯学習であると言えます。

この計画の骨子について次のとおりまとめました。



計画の体系

第2次 薩摩川内市総合計画

基本理念

- ・「安全・安心」：互いに支え合い、安全・安心な暮らしを充実します
- ・「活力」：培った地域の活力から、更なる魅力を創造します
- ・「共生」：人と地域が活躍する、共生協働のまちづくりを進めます
- ・「行財政」：効果的・効率的な行財政運営を推進します

将来都市像

人と地域が躍動し
安心と活力のあるまち
薩摩川内

施策の基本方針

健やかに生き生きと暮らせるまちづくり
快適で魅力的な住み続けたいまちづくり
地域の豊かな個性で活力を生み出すまちづくり
安全性と利便性の質を高めるまちづくり
次世代を担う人と文化を育むまちづくり
市民みんなで考え、行動するまちづくり

生涯学習推進計画

基本理念

基本目標

基本的視点

学びでつながる
人と地域
かがやく未来

「学び・活かし・繋げる」生涯学習社会の実現

市民の学習力の
向上

地域の学習力の
向上

人の成長段階
に即した多様な
学習機会の
提供

学習の成果を
生かせる機会
の提供

地域の特色を
生かす学習活
動の推進

SDGs の理念に
沿った生涯学
習施策の展開

基本施策

施策の方針

心豊かな学習社会の形成

ライフステージに応じた学習の推進

子どもの「生きる力」を育む学習の推進

青壮年による社会参画を進める学習の推進

高齢者の生きがいを高める学習の推進

健康・スポーツ・レクリエーション活動の推進

市民の主体的な学習活動の推進

多様な学習機会などの提供及び支援

地区・地域における学習の推進

学びを豊かにする環境づくり

リーダー（キーパーソン）の役割と仕組みづくりの推進

ネットワークを活用した学習の推進

学習施設などの機能充実

多様な学習への対応

地域における福祉の推進

青少年の健全育成を進める学習活動の推進

男女共同参画を進めるための学習の推進

障害者の学びを進める学習活動の推進

国際化に対応した学習の推進

環境教育・学習の推進

安全・安心のまちづくりを進める学習の推進

家庭教育・学習の推進

地域の資源を活用した学習の推進

高等教育機関などとの連携の促進

地域特性や文化遺産などによる学習の推進

推進体制の充実

学習推進体制の充実

第1章 生涯学習推進計画の策定に当たって

- 1 計画策定の背景
- 2 計画策定の目的
- 3 計画の位置付け
- 4 計画の期間

第1章 生涯学習推進計画の策定に当たって

1 計画策定の背景

本市では、「自ら学び 高めあい 支え合うまち さつまさんだい」に向けて、平成20年4月に薩摩川内市生涯学習推進計画を策定し、生涯学習施策を推進してきました。

今後、人口減少の更なる進行や人生100年時代の到来を迎え、新たな社会の姿としてSociety5.0※1の実現が提唱されるなど、更に大きな社会の変化が訪れようとしています。

一人ひとりが、学びを通じてその能力を維持向上し続けることができるよう、誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を個人の生活や地域での活動等に生かすことができる「生涯学習社会」実現への取組を強固に進める必要があります。

国においては、平成18年12月に教育基本法が改正され、「生涯学習の理念※2」が定められました。平成30年12月、文部科学省中央教育審議会「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」（答申）では、社会教育施設の役割等を含め、人口減少社会において、関係者の連携と住民の主体的な参画のもと、新しい地域づくりを進めるための学習・活動の在り方を中心に、今後の社会教育の振興方策について検討することが求められています。

県においては、平成31年2月策定の教育振興基本計画の中で、地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進、生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興など5つの方向性を示して、地域ぐるみでの子どもの育成、生涯学習環境の充実、生涯スポーツの推進など、推進体制の充実を進めています。

本市では、豊かな自然と誇れる歴史、文化、産業資源を有する南九州の拠点都市として、「地域力」を育み新しい地域の創出や市民参画によるまちづくりを進めています。生涯学習部門では、平成18年2月に有識者や市職員による生涯学習推進本部を設置し、市内関係機関と連携して、事業を総合的かつ効果的に進めています。また、市内48地区のコミュニティ協議会では、地区ごとの第4期地区振興計画に基づき、それぞれの地域の特性や人材を生かした自主的な学習活動が実施されています。

市民一人ひとりがそれぞれのライフステージ※3に応じた学習機会をいつでも自由に選択して、自ら進んで学ぶまちづくりを進める生涯学習社会の構築が求められています。

※1 Society5.0（ソサエティ5.0）

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、新たな未来社会（Society）のこと。

狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く新たな社会を指す。

※2 生涯学習の理念（平成18年12月22日改正、教育基本法第1章第3条）

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

※3 ライフステージ

人間の一生における幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期などのそれぞれの段階

2 計画策定の目的

多様化する学習ニーズへの対応、協働型社会における「新しい公共の担い手」の育成を主眼とし、各種の生涯学習振興策を総合的かつ計画的に進めていくために、基本的な指針として「薩摩川内市生涯学習推進計画」を策定します。

3 計画の位置付け

本計画は、「第2次薩摩川内市総合計画」（計画期間：平成27年度～令和6年度）を上位計画とした基本的な計画と位置付け、関連する各分野の計画との連携により、年度ごとの実行計画を立て、市全体における生涯学習を進めます。

4 計画の期間

本計画の期間は、令和2年度を初年度とし、令和6年度までの5年間とします。

ただし、社会情勢の変化や本市の社会環境の変化に対応していくため、年度ごとに生涯学習推進計画の評価を行い、必要に応じて計画の見直しを行います。

第2章 生涯学習をめぐる現状と課題

1 本市の現状

2 本市の課題

第2章 生涯学習をめぐる現状と課題

1 本市の現状

本市は薩摩半島の北西部に位置し、南は鹿児島市といちき串木野市、北は阿久根市に隣接する本土区域と、上甑島、中甑島、下甑島からなる甑島区域で構成されており、中甑島と下甑島をつなぐ架橋[甑大橋]が令和2年8月完成し、甑はひとつになります。

地理的には、南北に走る国道3号、東西に走る国道267号、南九州西回り自動車道、九州新幹線、JR鹿児島本線など幹線の通る交通運輸の要衝となっており、県北の中心都市として、商工業を始め都市機能・都市サービスなど多くの人々を集めています。また、東シナ海に面した変化に富む白砂青松の海岸線、市街部を悠々と流れる一級河川「川内川」、藺牟田池を始めとする湖沼や緑豊かな山々、地形の変化の美しい甑島、各地の温泉など、多種多様な自然環境を有しています。

市民が主体となった地域づくりを促進し、地域の自主的な活動と活性化を促すため、地区コミュニティ協議会や自治会と市との共生・協働によるまちづくりを進めています。各地区にコミュニティセンターを置き、話し合い活動、伝統行事、イベント、市民交流など各地区の生涯学習・地域づくりの場となっています。

また、公民館活動に代表される社会教育活動や文化活動などの生涯学習が盛んに行われています。

〔特性〕

- 豊かな自然環境(甑島国定公園、川内川流域県立自然公園、藺牟田池県立自然公園、白砂青松の海岸線、緑豊かな山々や池、温泉など)
- 豊かな歴史的・文化的資源(旧増田家住宅等：重要文化財、甑島のトシドン等：国無形民族文化財、薩摩国分寺跡等：国史跡、藤川天神の臥龍梅等：国天然記念物など)
- 交通の要衝(国道3号、国道267号、県道42号、南九州西回り自動車道、JR鹿児島本線、九州新幹線、肥薩おれんじ鉄道、高速船甑島、重要港湾薩摩川内港)
- 教育資源、社会教育活動の蓄積(地域に分散している教育施設、活発な公民館活動など)
- 市民の学習意欲の高さ、地域づくりへの高い参加意欲(地区コミュニティ協議会など)

2 本市の課題

本市は、九州新幹線川内駅や国道3号と国道267号の交差する地点にある都市文化ゾーン、川内川流域の田園文化ゾーン、甕島を中心とする海洋文化ゾーンなど広大な地域と多様な特色を持っています。

生涯学習においても地域の特色を生かした様々な活動をしてきていますが、その内容には必ずしも市民は満足されていないようです。

先に実施した生涯学習に関する市民アンケートの分析を見ると、「生涯学習」という言葉の認知度は高いようですが、生涯学習に意欲を持っている反面、仕事や家事が忙しく、生涯学習活動ができない実態があります。また、学習の内容については、趣味に関すること、スポーツ・レクリエーション活動、健康管理や家庭生活の分野にニーズがあるようです。今後も情報提供や講座の種類拡大及び充実などが求められています。

令和2年4月1日現在の本市の人口は、93,967人、このうち65歳以上の人口割合を示す高齢化率は、約32.1%であり、実に10人に3人が65歳以上という超高齢化を迎えています。

人生100年時代と言われる長寿化の中では、より多様で複雑化する課題と向き合いながら、一人ひとりがより豊かな人生を送ることができる持続可能な社会づくりを進めるために、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わっていくことが重要であります。

また、学校と地域の一層の連携が求められていること、さらには、社会人の学び直しによる生涯を通じた能力の開発や、地域で心豊かに活動するための学び、多様な人々と共に生きる社会をつくるための学び、高齢者が健康で自立して暮らしていくための学び等の充実が求められています。

誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を生かすことのできる生涯学習社会の実現に向けた取組への認識は高くなっており、これを市民全体で進めていくべきだとの意識も高くなってきています。

広大な地域に地区が分立する本市では、地区コミュニティを核としたまちづくりの基盤が整い、市内各地において活発な活動が展開されています。さらに、地域特性を生かした活力と魅力あるまちづくりへの取組が求められています。

これらの市民ニーズに対して市は生涯学習の理念や目標を設定して、計画を策定し、生涯学習社会の構築を進めていきます。

ただし、行政としては、少子高齢化・人口減少の進展や財政難のなか、市民のニーズのすべてに応えることは不可能であることから、生涯学習施策のどこに重点を置くべきかを検討し、推進することが重要であると考えています。また、共生・協働による社会・地域づくりが提唱されて久しくなりますが、生涯学習の分野においても、そ

それぞれの実施主体が中心となり、関わる人材・リーダーの育成や関わっている人のスキルを上げ、地区コミュニティ協議会を始めとするあらゆる実施主体が、置かれている現状(課題・問題点)を十分に認識し、自ら考え行動し、問題等を自ら解決するという意識を持ちながら推進していく必要があります、行政はその支援の在り方を引き続き検討していく必要があります。

併せて、本計画においては、SDGs※「目標4 質の高い教育をみんなに」の達成に向けて、いつでも、どこでも学び、学んだ成果を生かすことのできるまちづくりを目指します。

※ SDGs (エスディージーズ) とは、持続可能な開発目標で、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた国際社会共通の目標。17のグローバル(地球規模)目標と169のターゲット(達成基準)で構成されている。

「誰ひとりとして取り残されない世界の実現」を目指した2030年までに達成すべき世界を変えるための17の目標を掲げて地球規模課題の解決を目指しています。



第3章 基本理念

- 1 基本理念と目標
- 2 計画推進のための基本的視点

第3章 基本理念

1 基本理念と目標

生涯学習推進計画の基本となる考え方として、また、これからの生涯学習社会実現に向けた方向性を示すものとして、基本理念を次のとおり定めます。

また、生涯学習推進の具体的な施策の方向性を示すため、基本目標を定めます。

基 本 理 念

学びでつながる 人と地域 かがやく未来



基 本 目 標

**「学び・活かし・繋げる」
生涯学習社会の実現**

本市の豊かで多種多様な自然や人々により、長い年月を経て育まれてきた風土、伝統、文化、産業など「地域力」を学びの場に活用し、子どもから高齢者まで市民がいつでも、どこでも自由に学べる生涯学習社会の実現を目指します。

この基本目標推進に当たり、「市民の学習力の向上」、「地域の学習力の向上」、「人の成長段階に即した多様な学習機会の提供」、「学習の成果を生かせる機会の提供」、「地域の特色を生かす学習活動の推進」、「SDGsの理念に沿った生涯学習施策の展開」の6つの基本的視点を柱とします。

2 計画推進のための基本的視点

(1) 市民の学習力の向上

学習活動を促進することは、一人ひとりが健康で心豊かな生活を送り、人や社会とのつながりを築く力や職業生活に必要な知識・技術を修得し、社会を支え発展させることにつながります。

社会を構成するのは人間です。その社会を継続、発展させるために、人間としての学びが求められています。近年は、環境問題や安全安心に関する問題など、様々な社会的課題が山積しています。このため、市民一人ひとりの学習力向上のための活動を推進することが必要です。

(2) 地域の学習力の向上

自らの知識や経験を生かしたいと考えている人に地域の課題解決や地域社会の形成に主体的に参加し活躍することが求められています。このため、地域の課題や歴史・文化、環境問題などに関する学習活動を推進する必要があります。

さらに、地域・人間関係の希薄化が懸案となっている今日にあって、地域や人間関係の創造は地域や社会の活性化にもつながります。

したがって、地域の学習力を向上させるために、学習機会の拡充を始め情報提供の手段の充実などの取組を促進していくことが必要です。

(3) 人の成長段階に即した多様な学習機会の提供

市民一人ひとりが生涯にわたって主体的に多様な選択を行いながら、生涯学習を進めていくことができるよう、学習意欲の持続を図り、学習習慣を身に付け、いつでも、どこでも学習が可能な環境の醸成に配慮し、一人ひとりの発達段階に応じ学習できるよう、多様な学習機会の提供が必要です。

(4) 学習の成果を生かせる機会の提供

学んだことを職業や社会活動に生かせる場の充実を図ることが必要です。このため地域や社会の課題、企業、関係団体のニーズを適切に把握し、学習発表会や作品展示・指導など多様な実践の機会を提供することが重要です。

(5) 地域の特色を生かす学習活動の推進

地域にある自然や風土、地理的特徴など日々の暮らしを支え、日々影響を受けている地域社会に学び、各地域に築き上げられてきた歴史や伝統、文化など、またそれを支えている人々からの学びなど、地域は生きた教科書であり学習の場としての宝庫です。その内容と価値を「地域力」として活用し、地域から学び、そして地域を創る学習活動を推進していくことが必要です。

(6) SDGsの理念に沿った生涯学習施策の展開

人生100年時代には、高齢者から若者まで、すべての国民に活躍の場があり、すべての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくる必要があります。

SDGsの理念も踏まえ、誰ひとりとして取り残されない社会づくりを目指し、社会的に困難な状況におかれていたり、社会的に孤立したりしがちな住民等の学びを通じた地域社会への参画を支援するための対応が必要です。

第4章 計画の施策内容

第1節 心豊かな学習社会の形成

- 1 ライフステージに応じた学習の推進
- 2 健康・スポーツ・レクリエーション活動の推進
- 3 市民の主体的な学習活動の推進

第2節 学びを豊かにする環境づくり

- 1 リーダー（キーパーソン）の役割と仕組みづくりの推進
- 2 ネットワークを活用した学習の推進
- 3 学習施設などの機能充実

第3節 多様な学習への対応

- 1 地域における福祉の推進
- 2 青少年の健全育成を進める学習活動の推進
- 3 男女共同参画を進めるための学習の推進
- 4 障害者の学びを進める学習活動の推進
- 5 国際化に対応した学習の推進
- 6 環境教育・学習の推進
- 7 安全・安心のまちづくりを進める学習の推進
- 8 家庭教育・学習の推進
- 9 地域の資源を活用した学習の推進

第4節 推進体制の充実

- 1 学習推進体制の充実

第4章 計画の施策内容

第1節 心豊かな学習社会の形成

1 ライフステージに応じた学習の推進

1-1 子どもの「生きる力」を育む学習の推進

【現状と課題】

近年、スマートフォンやオンラインゲーム機など情報端末機器の所持率も高くなっています。今後はそれらの使用のマナーや体に与える影響等について、教育や保護者への啓発等を充実させていく必要があります。また、子どもたちの自然体験などの体験活動や読書活動の不足、学力や体力、コミュニケーション能力の低下など、子どもたちに関わる課題も指摘されています。一方では、ネグレクト※や幼児虐待など家庭内の問題も確認されており、地域ぐるみで見守っていく体制づくりも課題です。

次代を担う子どもの育成は、社会全体の責任であることを踏まえ、子どもが健全に育つためには、家庭、学校はもとより、職場、地域、民間団体などの社会を構成する全ての組織や個人がそれぞれの役割や責任を認識し、相互に協力して取り組むことが求められています。

現在、少年自然の家では集団宿泊学習の他に子供の冒険心・協調性を育む夏・冬のアドベンチャーやキッズキャンプ等を実施していますが、今後も継続して子供たちが自然体験や相互交流を図ることができる場を提供していきます。

※ ネグレクト

ここでは、子どもに対する育児放棄、育児怠慢、監護放棄を指す。

【施策の内容】

● 自然活動体験を通した「生きる力」を育む学習の推進

子どもは「自然」や「遊び」から多くのことを学びます。自然に触れ、のびのびと遊ぶことは、たくましい身体づくりと豊かな心の育成につながります。本市の豊かな自然を活用し、子どもたちに自然に触れる様々な体験の機会を提供します。

- ☐ 青少年フレッシュ体験事業の実施
- ☐ ジュニア・リーダー研修会などの実施
- ☐ 夏・冬のアドベンチャー事業の実施
- ☐ リフレッシュ in 寺山の実施

● **人との交流や仲間づくりを通した「生きる力」を育む学習の推進**

家族に始まる人間関係から同世代の友達、学校の先生や地域の大人へと社会的活動が広がる中で、人との交流、また、ふれあい体験の機会を提供し、集団生活の場で生きる力や社会的な規範の学習を進めます。

また、幅広い年代の音楽やダンスの舞台発表など市民の積極的な参加の場を提供します。

- ☐ 青少年フレッシュ体験事業の実施
- ☐ イン・リーダー研修会の実施
- ☐ サマーミュージックフェスティバル i n 薩摩川内の実施
- ☐ 創作体験事業の実施

● **「家庭による学び」の推進**

各学校等に家庭教育学級を設置し、また、家庭教育講演会や子育て講座を開催し、更に家庭の教育力の向上に努めます。

- ☐ 家庭教育推進事業

● **文化財愛護意識の高揚**

本市のもつ文化・文化財・歴史に触れてもらい、郷土愛を育み、文化財愛護意識を高めるため、市民を対象とした文化財少年団、文化財ボランティア団体等の育成を図るとともに、本市の文化財を知る講座（出前講座）を実施し、推進します。

- ☐ 地区コミュニティ協議会などへの出前講座の実施



夏のアドベンチャー事業



出前講座の実施（郷土の文化財を知る講座）



青少年フレッシュ体験事業

1-2 青壮年による社会参画を進める学習の推進

【現状と課題】

社会情勢の変革により、青年を取り巻く環境も大きく変化しています。経済発展による豊かな社会において、雇用形態の変化や格差社会が叫ばれる中で、地元を離れ、市外、県外に生活基盤を置く若者が増加しています。

本市においても、令和2年4月1日現在における30歳～50歳までの人口比率は、23.6%となっており、地域を支え、地域の後継者として育成を目指すには、各人が持ちうる「地域愛」をいかに引き出すか、現在のリーダーの意思を繋げられるかが、問題となっています。

青年が地域や社会に参画し、多くの人と交流を持つことは、社会性、協調性、公共性を備えることにつながります。また、自らの自覚と責任において行動し責任を果たすことは、人間として極めて重要なことです。いくつかの地域では、伝統芸能の継承活動を通じた地域社会への参加が進められていますが、若者が参加する様々な事業や行事などにおいて、若者自身の自主性を意識的に学習する機会が必要です。

また、就労への無気力や生活観の無気力・消極的な若者に対し、これからの人生に意義のある学びの機会を提供することが求められます。

一方、壮年にあっては、子どもの家庭教育や地域づくりのリーダーとして、更に多様な学習を積極的に行うことが求められています。

【施策の内容】

● 地区・地域における若者の社会参画の推進

若者の地区・地域における郷土芸能や地域の行事への参画が広がっています。

今後、更に様々な機会において、地域における交流や、積極的な行事・郷土芸能活動への参画を促すために、若者の地域学習の場を充実します。

- ☐ 地区コミュニティ協議会における青壮年の参画への支援
- ☐ 各地域の郷土芸能保存団体の活動や後継者育成の支援
- ☐ 地区・地域におけるスポーツ活動などへの青壮年の参画

● 学生の受け入れ

インターンシップ※制度を活用した学生の研修の場として地区コミュニティセンターを利用した職場体験を行い、社会参画への意識づけをします。

※ インターンシップ

特定の職の経験を積むために、企業や組織において労働に従事している期間のこと



郷土芸能保存団体による生涯学習舞台発表

1-3 高齢者の生きがいを高める学習の推進

【現状と課題】

本市の高齢化率は、令和2年4月1日時点で32.1%と全国及び県平均を上回って推移しています。本市では、社会福祉協議会やシルバー人材センター、高齢者クラブ連合会などが地区コミュニティ協議会と協働して、長寿楽園大学やふれあいいきいきサロン事業などの生きがいきり事業に取り組んでいます。高齢者が就労や趣味を通して生きがいを持ち、健やかな生活を営むことは、地域社会の活力を維持し、豊かでいきいきとした活力ある地域づくりを進める上でも極めて重要な課題です。

これまで、長い人生を歩んできた高齢者の豊かな経験や知識は、社会の貴重な「宝」です。この「宝」を地域社会に生かし、まちづくり・ひとづくりに生かすためには、様々な学習や交流の機会が必要です。

このため、高齢者がいきいきと社会参加し、その知識・経験がいかされるための学習を進めていくことが求められています。

【施策の内容】

● 高齢者の生きがいきりを進める学習の推進

高齢者が健康で生きがいを持ち、いきいきと生活するためには、学びや健康づくり・趣味などを通じた生きがいきりの場の充実が必要です。

このため、市民大学をはじめ地区コミュニティ協議会における高齢者学習講座などを充実し、多様な学習ニーズに対応し、学習の成果がいかされるようにします。

また、長寿楽園大学や高齢者クラブにおける趣味の教室など、これまでの活動を継続し学ぶことが楽しくなるような活動に取り組み、健康づくり生きがいきりを進めます。

- ☐ 市民大学の高齢者を対象とした講座の充実
- ☐ 高齢者団体指導者養成事業の充実
- ☐ 地区コミュニティ協議会における高齢者学習講座などの充実
- ☐ 長寿楽園大学、高齢者クラブにおける趣味の教室などの充実

● 高齢者の社会参加を進める学習の推進

高齢者が住み慣れた地域で、健康でいきいきと生活し、社会参加を進めていくために、ふれあいいきいきサロンや地区コミュニティ協議会及び学校・PTAなどが連携して世代間交流事業など様々な交流の場の創出を図り、高齢者が主体的に生きがいを感じながら社会参加活動ができる学習を進めます。

また、高齢者の持つ技能・技術、専門的知識を、学校教育を支える新たな仕組みづくりに生かします。

- 地区コミュニティ協議会・自治会などによる世代間交流事業の充実
- 高齢者クラブによる学校や社会教育団体との交流事業の充実
- さつまсенだい学校応援団（学校支援ボランティア）事業の充実



長寿楽園大学



さつまсенだい学校応援団事業

2 健康・スポーツ・レクリエーション活動の推進

【現状と課題】

市民の誰もがスポーツを通じて健康を維持し、交流の輪を広げ、健やかで豊かに暮らせるよう、総合運動公園を始め、多くのスポーツ施設が整備されています。

高齢化が進む中で健康寿命を延ばすためには、各種健康スポーツ教室の開催などを通じて、スポーツに慣れ親しみ、身近にスポーツを楽しむ生涯スポーツを更に推進していく必要があります。

少子高齢化、情報化の進展、地域社会の空洞化、人間関係の希薄化など社会環境の急激な変化と長寿社会の拡大、健康ブームの到来等による健康づくりへの意識の高まりなどにより、市民のスポーツに対するニーズは多様化してきています。

このため、「いつでも」「どこでも」「だれでも」スポーツ・レクリエーション活動を楽しむことができるよう、各年代や健康状態・能力に合わせて、身近な地域での活動を支援する環境の整備や組織活動・指導体制などの充実が求められています。

【施策の内容】

● 生涯スポーツ・レクリエーション活動の推進

健康の維持増進や体力づくりを目的に、市民がいつでも・どこでも・だれでも気軽に生涯スポーツ・レクリエーション活動を楽しむことができるよう各種健康スポーツ教室の開催や地域スポーツクラブの育成などに取り組みます。

☐ スポーツ・レクリエーション活動への支援

● スポーツ・レクリエーション施設・設備の充実

市民のスポーツ・レクリエーション活動の基盤として役割を担えるよう、設備などスポーツ環境の充実を図ります。

また、体育施設の利用増進やサービスの向上を図るために、適切な管理・運営を行います。

☐ 広報紙・ホームページによるスポーツ情報の発信

● 地域の特色を生かしたスポーツ・レクリエーション活動の推進

市民の誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめるよう、各スポーツ団体と連携を図り、スポーツ大会の開催や支援に取り組みます。

また、生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に、ライフステージに応じたスポーツ教室の実施に取り組みます。

- ☐ 川内川を生かしたスポーツ大会の開催
- ☐ スポーツ教室の開催
- ☐ 公社杯ソフトバレーボール大会の開催

● 生涯スポーツの充実に向けた取組の推進

市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備するため、特定非営利活動法人薩摩川内市体育協会、市スポーツ少年団等のスポーツ団体との連携及び総合型地域スポーツクラブの育成・支援を図ります。

また、各地域におけるスポーツ推進委員の役割を周知し、地域におけるスポーツの指導及び普及の推進を図るとともに、プロスポーツなどの合宿誘致によって一層のスポーツ振興を図り、スポーツをまちづくりに生かすための施策や仕組みづくりを推進します。

- ☐ スポーツ関係団体との連携及び活動への支援
- ☐ スポーツ推進委員活動への支援
- ☐ スポーツ合宿誘致活動の推進

● 健康づくりの推進

乳幼児から高齢者まで、市民一人ひとりが健やかで、主体的に健康づくりに取り組んでいけるように、関係機関・団体、地域、学校等と一体的となって健康づくりを推進していきます。

また、ストレスと心身の関係についての正しい理解やストレスが生じた場合の対処法など、様々な機会を通じた心の健康づくりを行います。

- ☐ 健康教育・健康相談の実施
- ☐ こころの健康相談
- ☐ こころの健康づくり講演会
- ☐ 働く世代及び高齢者の健康づくり作業部会

● 高齢者の健康づくりの推進

高齢者の皆さんが、地域貢献や社会参加をすることで、介護予防につとめることを目的とし、対象事業への参加を促進しながら、健康づくりを推進していきます。

また、高齢者が自主的に健康づくりに取り組んでいけるよう、自主活動への支援をすることで、高齢者が多くの市民と交流できる環境づくりを進めます。

- ☐ 高齢者の介護予防事業の充実
- ☐ 働く世代及び高齢者の健康づくり作業部会
- ☐ 介護予防事業リーダーによるわっはっは教室
- ☐ 介護予防元気度アップ事業の実施
- ☐ 認知症サポーター養成教室
- ☐ 介護予防総合通所型事業

(関連計画)

- ◇ 第2次健康づくり計画



こころの健康づくり講演会



川内川を生かしたスポーツ大会の開催

3 市民の主体的な学習活動の推進

3-1 多様な学習機会などの提供及び支援

【現状・課題】

市民一人ひとりが生きがいを持って豊かな生活を送るため、様々な生涯学習の機会を創出し、多様な要望に対応できるよう講座や事業を推進し、人生100年時代の到来を見据え、誰もがいくつになっても学べる環境づくりが求められています。

講座等の受講生は、高齢者が多い傾向にあり、ニーズに合わせた内容を検討するとともに、託児付きの講座を取り入れるなど若い世代が受講しやすい環境を更に整えていく必要があります。

【施策の内容】

● 市民一人ひとりに応じた学習支援や学習相談事業の充実

市民一人ひとりに応じた学習情報の提供手段や、多様なニーズに対応できるよう、学習に関する相談体制を充実します。

また、公民館や地区コミュニティセンターなど身近な学習の場において、時代のニーズや地域特性に対応していけるよう支援します。

● 市民大学講座のさらなる充実

市民大学講座について、市民ニーズに即したテーマや現代的課題をテーマにした学習カリキュラムについて調査・研究を進め、魅力ある講座の開設など、市民大学講座を充実します。

また、自主学級の事業運営に支援を行います。

□ 市民大学講座の充実

● 図書館機能の充実と読書活動の推進

市民が図書館や視聴覚ライブラリーを効果的・有機的に活用できるように施設・設備の適切な管理運営など、環境づくりを進めます。また、地域の中での情報拠点として、図書資料及び視聴覚教材・機材などを充実し、関連の講座開催など利用者の学習支援を進めます。

□ 図書館教養講座などの開催



市民大学講座



図書館教養講座

3-2 地区・地域における学習の推進

【現状と課題】

本市は、地区コミュニティ協議会を中心として、共生と協働による「地域づくり」、「ひとづくり」を進めています。

地区コミュニティ協議会は自治会を始め、小・中学校、子ども会育成会、女性団体、高齢者クラブ、消防団、NPO法人※など地域の関係機関や団体で構成され、「安全・安心」に関する活動や「健康づくり」のための取組、「地域福祉」、「快適環境づくり」など生涯学習とより密接な関係にある様々な活動を展開しています。

その反面、個々の価値観やニーズの多様化、生活様式などの変化により、地域連帯感（つながり）、コミュニティ活動に対する希薄化が懸念されています。

このため、コミュニティ活動を生涯学習の観点から積極的に支援し、豊かな地域社会の形成を進めていく必要があります。

※ NPO法人

NPO法に基づき認証を受け、法人格を取得した団体

【施策の内容】

● 地区コミュニティ協議会などによる自主的学習活動の推進

地区コミュニティ協議会では、様々な自主学習グループが自主的に活動しています。また、「安全・安心」なまちづくりや「高齢者の生きがいづくり」、「青少年の健全育成」活動など、地域の今日的課題に対する積極的な取組が行われています。

このため、地区コミュニティ協議会・自治会による多様な学習活動を支援します。

- ☐ 地区コミュニティ協議会への学習支援
- ☐ まちづくり出前講座の充実

● 地域学習の指導者育成の推進

地区・地域の学習活動を進めるためには、学習活動をリードする指導者などの養成が必要です。そのため、各種講習会の開催や学習情報などを提供します。

- ☐ 地域活性化のための研修会の充実

● **生涯学習関連施設の整備・促進**

市民の多様な生涯学習が、「いつでも、どこでも、気軽にできる」環境の整備が必要です。このため、中央公民館・地域公民館・地区コミュニティセンターなど生涯学習関連施設の適正な維持管理に努めます。

- ☐ 地区コミュニティセンターの適切な補修・維持管理
- ☐ 中央公民館等の適切な補修・維持管理

● **生涯学習機能の効率化**

各地区の特色や生涯学習施設の特性・機能に応じて効率的に推進するため、行政が実施する事務事業の一部を地区コミュニティ協議会、自治会、NPO法人や民間・公益事業者などに依頼します。

- ☐ 公益事業者などによる生涯学習機能の効率化



48 地区コミュニティ協議会会長会議

第2節 学びを豊かにする環境づくり

1 リーダー（キーパーソン）の役割と仕組みづくりの推進

【現状と課題】

地域住民をまとめ、関連する団体や企業を通して、知識を得られる生涯学習活動をより推進していくためのリーダーが必要となっており、その役割は重要であります。また、高齢化していく地域のリーダーの後継者が、同世代との和の拡大、交流を持つ団体との連携、地域を活かす活動への推進などにつなげる役割を意識した活動が求められています。

【施策の内容】

● 生涯学習リーダー（キーパーソン）などの育成

生涯学習を推進していくため、あらゆる学習の機会や研修会・講習会の開催情報の提供などを行い、生涯学習を進めるための指導者を養成します。

また、既に様々な分野において生涯学習の指導者として活躍している人材の活用や、地域に埋もれている人材を発掘・養成します。

- ☐ 人材バンク「すてきびと※」の充実・活用の促進
- ☐ 社会教育団体指導者講習会の受講促進

※ すてきびと

各種の知識技術を持った、本市独自の生涯学習人材バンク

● コーディネーター※の育成支援

生涯学習に求められる学習内容が多様化していることや、幅広い年齢層への対応が必要なことから、活動を行っている団体の情報提供や相談・支援に対応することができるコーディネーターを育成します。

※ コーディネーター

物事を調整し、全体をまとめる人。ここでは、地区コミュニティ主事を指す。

● 市民の学習成果の還元

学習した成果を発表することは、発表者の学習意欲を向上させます。

このため、生涯学習人材バンク制度の市民への周知拡大を行うほか、市民が利用しやすい制度の構築を行い、学習者の成果発表の機会を拡大します。

- ☐ 人材バンク「すてきびと」の充実・活用の促進
- ☐ 地区コミュニティ協議会への学習支援
- ☐ 市及び地区コミュニティ協議会などによる生涯学習フェスティバルの開催
- ☐ 薩摩国分寺秋の夕べ等の文化イベントの開催

● ボランティア活動の推進

ボランティア活動そのものが生涯学習の場です。学習の成果を生かす場としてのボランティア活動や人々の生涯学習を支援するためのボランティア活動があります。

このような、ボランティア活動を市民一人ひとりが理解し、自らの意思で参画し、活動していくことが重要です。そのため、ボランティア活動に関する情報の提供や学習機会を充実します。

また、東日本大震災以後、ボランティアや市民活動に対する国民の意識・活動参加意欲が高まり、活動内容も多様化してきています。また、生活困窮者支援や介護保険法の改正など、新たな制度や昨今頻発する災害時の被災者支援に対し、ボランティア・市民活動が担う役割への期待も高まっています。

平常時・災害時を問わず、ボランティア・市民活動が持つ力を十分に発揮していくためには、多様な関係機関が協働しながらボランティア・市民活動を支援していく必要があります。

しかし、住民座談会やアンケート調査の結果をみると、ボランティア活動への参加経験は5割弱しかない現状です。参加しない理由としては、仕事や学校などの都合や体力的な問題、活動に関する情報がないことが挙げられていました。

このことから、ボランティア活動への理解を深め、参加を促進するための活動やボランティアに関する情報を広く市民に発信していくことを目指していきます。

これまで実施してきた福祉教育の大半は、高齢者疑似体験やアイマスク体験など高齢者や障害者の気持ちを学ぶよりも、単に身体的な不自由さに焦点化し、福祉教育として推進してきた経緯があります。今後の福祉教育は、子どもたちや地域の方々と「個」への尊重や違いなどを一緒に考え、共に福祉の価値を深めながら「地域福祉に理解のある人材育成のための取組み」を行います。

- ☐ まちづくり出前講座の積極的活用
- ☐ 薩摩川内市ボランティアセンターの運営
- ☐ 薩摩川内市ボランティアセンターへの支援
- ☐ さつまсенだい学校応援団（学校支援ボランティア）事業の充実
- ☐ 福祉教育・ボランティア講座の開催
- ☐ まちづくり公社によるまちづくり交流事業の実施

● 中間支援センター設立の検討

学習内容が多様化するにつれて、相談内容に対して事例を紹介したり、各種団体や個人（すてきびと、アーティストバンク、学校支援ボランティアなど）をコーディネートしたり、地域や各種団体が抱える生涯学習活動の課題・問題点について、総合的な支援を行う中間支援センターの設立を検討します。

また、センターとの連携を促進するため、ボランティアや市民活動団体等を広くネットワーク化します。

- ☐ 市民活動ネットワーク会議の開催
- ☐ 市民活動センターの運営



人材バンク「すてきびと」による物作り体験



市民活動ネットワーク会議

2 ネットワークを活用した学習の推進

【現状と課題】

生涯学習社会の形成を図るためには、公共機関を始め民間企業、大学など高等教育機関と連携し、学習教育資源である「人・もの・情報」の有効活用が求められています。

また、各地区コミュニティ協議会をはじめ自治会、企業、各種団体などによる多様な学習ニーズや現代的課題に対応していくために、市民活動ネットワーク会議を立ち上げ、構成団体間の情報交換や市民活動情報サイトを通じての情報発信を実施していますが、更に民間事業者や高等教育機関、NPO法人、ボランティア団体など様々な組織との連携を強化する必要があります。

このため、生涯学習推進本部を中心として、生涯学習に関する施策を総合的に進めていますが、今後は、更に総合的な連携の体制とネットワークを構築することにより、生涯学習を進める必要があります。

【施策の内容】

● 生涯学習施設・教育機関・民間企業などとの連携・協力による生涯学習の推進

本市の生涯学習推進のために生涯学習施設・教育機関・民間企業などが果たすべき役割を明確にし、各地区コミュニティ協議会と課題や情報を共有し、市民組織、行政内部組織、民間企業のそれぞれが持つ機能を十分に発揮できるようネットワークを強化します。

- ☐ ネットワークを向上させるための場の提供
- ☐ 生涯学習ワーキングチームの充実強化

● 家庭・学校・地域の連携・協力体制づくり

家庭・学校・地域がそれぞれの役割について共通理解し、より一層有機的なネットワークの構築を進めていきます。特に、教育や子育てに関する課題解決のため、家庭・学校・地域がそれぞれの持つ教育的機能と責任を果たしつつ、三者一体となって教育力の向上を進め、子どもを育てる仕組みづくりを進めます。

- ☐ 家庭教育推進事業
- ☐ 青少年育成事業
- ☐ 地域学校協働活動※

※ 地域学校協働活動

地域の高齢者、保護者、PTA、NPO、民間企業等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域

全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して地域と学校が相互に連携・協働して行う様々な活動

● **大学などとの連携により専門性を生かした学習の推進**

鹿児島純心女子大学との連携協力に関する協定に基づき、より専門性を生かした学習を進めます。また、鹿児島大学、市内高等学校などの教育機関との連携・協力体制により、インターンシップの学生に専門性を生かした研修を進めます。



家庭教育推進事業（家庭教育学級）



インターンシップ（鹿児島大学生の受け入れ）

3 学習施設などの機能充実

【現状と課題】

近年、市民の学習活動が活性化、多様化しており、施設利用希望者が増加するなか活動の場の確保が困難な現状が見られます。また、学習内容に沿った施設利用とっていない場合も見受けられ、多種多様化した学習活動を進めるための学習の場の拡充が必要とされています。

また、既存の生涯学習関連施設の情報通信機能や文化拠点機能の強化に努め、施設間のネットワーク化を一層図る必要があります。

本市には中央公民館や地域公民館を始め、地区コミュニティセンターなどの生涯学習関連施設において、多様化する学習ニーズに対応し、様々な面から学習活動を支援している中で、エレベーターや玄関へのスロープ※設置など、障害者や高齢者が利用しやすい施設整備を行っていますが、施設の老朽化により、改善への対応が求められます。

※ スロープ

玄関前までのアプローチ部分に設けられた緩やかな傾斜の通路のこと

【施策の内容】

● 情報機能の整備充実

市ホームページを始め、市民活動情報サイト、広報紙やテレビ・ラジオなど、様々な機会を通して学習情報の提供を行います。

また、生涯学習関連施設間の情報通信機器の整備を充実します。

□ 市民活動情報サイトの充実

● 生涯学習関連施設などのバリアフリー※化の推進

高齢者や障害者が使いやすいように整備を充実します。

※ バリアフリー

高齢者・障害者が生活していく上で、障壁（バリア）となるものを除去（フリー）すること

● 高度情報通信技術の活用などに向けた施設・設備の充実

テレビ会議システムやインターネットなど高度情報通信技術を活用した学習手段を整備します。

また、放送大学を利用して学ぼうとする市民へ、情報提供等の支援を行います。

さらに、情報通信は、高齢者や障害者にとってもコミュニケーション手段となり得るもので、その積極的な利用は、自立・社会参加の支援に効果的であり、ノーマライゼーション※や生活の質の向上実現を目指します。

- ☐ インターネット環境整備の充実
- ☐ 高齢者等向けパソコン・タブレット研修用備品の整備

※ ノーマライゼーション

障害者も健常者と同様の生活ができるように支援すべきという考え方

● **学習施設・設備の充実と維持管理**

生涯学習関連施設について、現代的課題解決に向けた学習事業の在り方や効果的な施設運営について研究を進めます。

さらに、老朽化している建物の改築や設備の整備を図り、市民に利用しやすい学習施設を目指します。

また、施設の中には建設から45年以上経過し、老朽化が顕著なものもあり、公民館等施設改修保全計画に基づき、年次的に改修を進めていく必要があります。

- ☐ 公民館等施設改修保全計画

● **学習者をサポートする機能の強化**

市民の学習意欲を高め、学習者に対し適切なアドバイスができるよう、情報収集やサポート体制づくりを進め、各種学習の周知を図るための広報活動を行います。

また、他の関係機関における各種相談制度や相談事業と連携し、相談者に対して幅広く対応できる体制づくりを行います。

- ☐ 市民活動情報サイトの充実
- ☐ 市民活動センターでの情報提供や相談業務
- ☐ 中央公民館講座等事業
- ☐ 地域公民館講座等事業



タブレット講習会



中央公民館講座[自主学級]



市民活動情報サイト

第3節 多様な学習への対応

1 地域における福祉の推進

【現状と課題】

社会・経済構造が急速に変化の中で、家族形態の変化、市民の意識や価値観の多様化等により、地域住民相互のつながりが希薄化し、地域福祉を取り巻く環境は大きく変容してきています。

なかでも、家庭環境や地域の相互扶助機能の弱体化を始め、少子高齢社会の急速な進行、社会からの孤立など新たな社会問題などが喫緊の課題として挙げられています。

このような中、市民が相互扶助の原点に立ち返り、地域に住む人々が共に助け合い、支え合い、思いやりのある地域福祉社会を構築することが求められています。

また、地域福祉関係者の連携や、包括的支援体制の整備、市民の健康維持増進、子どもが健やかに育つ環境の整備、障害のある人々の生活を支える体制の充実、社会全体の精神的及び身体的バリアフリー化が地域福祉を支える上で極めて重要となります。

【施策の内容】

● 福祉への理解と福祉意識向上の促進

時代の変化によるニーズの多様化が予想されており、そのためにも、対応できる地域を目指して現状の把握と、今後の活動の仕組みづくりとして、必要な講座を開催しています。内容については、講座の参加者や住民座談会の声、そしてアンケート等で地域の実情を反映し実施しています。

今後、地域住民の1人1人が他人事を「我が事」として身近に感じ、共に協力していく活動が求められています。

人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながる仕組みづくりができるような講座の展開やボランティア団体の育成・支援を目指します。

少子高齢化の急速な進行とともに、高齢者や障害者の自立と社会参加、家庭機能の変化や子育て支援など、社会福祉に関わる課題やニーズはますます多様化し、増え続けています。

このような中、地域住民や専門職からは「つながりやネットワークは今後、特に重要」とその必要性を強く感じている一方、それを構築する場がないことから、「つながりの場づくり」は社協にとって急務であり、地域福祉を推進していく上で必要不可欠なものであると考えます。

そこで、福祉活動の普及と充実を図りつつ「つながりの場づくり」が実施される仕組みづくりを目指します。

- ☐ ボランティア講座の開設
- ☐ ボランティアセンターの発展・強化
- ☐ 社会福祉・ボランティアフェアの開催

● **子育て支援に関する学習機会の拡充**

子育て中の世帯が、家庭や社会的に孤立することがないように、子どもを生み育てていく不安を解消するため、育児に関する講演会や食育に関する学習機会を拡充します。

また、幼稚園・認定こども園・保育所などの関係機関や母子保健推進員、食生活改善推進員との連携を密にし、相談体制など総合的な支援体制の構築を進めます。

- ☐ 地域子育て支援センター事業
- ☐ 利用者支援事業
- ☐ ファミリー・サポート・センター事業
- ☐ 育児リフレッシュ事業等の充実
- ☐ 子育て世代包括支援センター事業



育児リフレッシュ事業（はぐHUG）

2 青少年の健全育成を進める学習活動の推進

【現状と課題】

ライフスタイル※1の多様化に伴い、核家族化の進行や地域連帯感の希薄化が進行しています。全国では、SNS※2による有害情報の氾濫、個人情報の流出など、事件や事故に巻き込まれる事案が発生しており、青少年を取り巻く環境は、高度情報化の進展とともに年々深刻になっています。

また、薩摩川内警察署管内での少年非行は、令和元年で万引きなど19件が報告されており、全体的には減少傾向にあります。

なお、不良行為により補導された青少年は、令和元年に深夜徘徊など48件が報告されており、こちらも減少傾向にあります。

一方、不審者による児童生徒への声掛け事案は、近年10～15件で推移しており、引き続き注意をする必要があります。このため、警察をはじめ、各行政機関、地域の防犯パトロール、スクールカウンセラー※3、スクールソーシャルワーカー※4など、行政・地域・学校などが連携協力を図りながら、引き続き青少年を見守る活動等を推進していく必要があります。

次世代を担う青少年を、明るく健やかで、たくましく育むとともに、人格の基礎を築き将来の夢や希望を抱いて自己の可能性を進展させることは、大人の責務であり、全ての市民の願いでもあります。青少年を次世代の構成員として、活力ある地域社会を築いていくために、家庭・学校・地域社会などの各分野にわたる青少年健全育成のための施策を関係機関・団体と連携し、市民参加のもと様々な体験活動などの取組を積極的・総合的に進める必要があります。

※1 ライフスタイル

生活の様式、営み方。また、人生観、価値観、習慣などを含めた個人の生き方

※2 SNS

Web（ウェブ）上で社会的ネットワークを構築可能にするサービス

※3 スクールカウンセラー

教育機関において、心理相談業務に従事する心理職専門家

※4 スクールソーシャルワーカー

子どもの家庭環境による問題に対処するため、児童相談所と連携したり教育を支援したりする福祉の専門家

【施策の内容】

● 家庭や地域の教育力向上を図る学習活動の支援

家庭や地域への学習機会の提供に努めるとともに、学習活動に係る様々な相談や情報を提供し、青少年育成の日、家庭の日など、家庭や地域における学習の機会を啓発します。

また、家庭や地域における読書活動を促進するため、学校・幼稚園・保育所等への情報提供、読書グループ等との連携及び活動などを積極的に支援していきます。

- ☐ 家庭教育推進事業
- ☐ わくわく薩摩川内土曜塾
- ☐ 青少年育成事業
- ☐ 薩摩せんだい図書館フェスタ開催

● 家庭・学校・地域の連携体制の充実

子どもの「生きる力」を育むためには、地域の教育力を活用することが大切です。そのために、幅広い地域等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、地域と学校が相互に連携・協働して行う活動が必要です。

このため、家庭・学校・地域社会の三者がそれぞれに役割を分担しながら、相互の連携を深め、地域ぐるみで子どもを育てるという意識の高揚を行います。

また、放課後や休日などの「子どもの居場所づくり」に努め、子どもたちがどこにおいても安全に、安心して活動できる社会づくりを進めます。

- ☐ 家庭教育推進事業
- ☐ さつませんだい学校応援団（学校支援ボランティア）事業の充実
- ☐ 地域学校協働活動
- ☐ 学校運営協議会（コミュニティ・スクール※）の充実

※ コミュニティ・スクール

学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組み、「地域とともにある学校」をめざす仕組み

- ☐ わくわく薩摩川内土曜塾（基礎基本講座）
- ☐ 放課後児童クラブの充実
- ☐ 「子ども食堂」への支援

● 青少年を守り、育成する市民活動の促進

青少年育成市民会議を中核とし、PTAや地区コミュニティ協議会を始め各種の機関や団体・企業が互いに連携し、市民が共通の理解と認識をもって青少年を守り、育成する市民運動を展開できるよう、意識の啓発を図るとともに、各種活動への市民の積極的な参加を進めます。

また、青少年の犯罪や非行を防止するため、少年愛護センターや警察を始めとする機関、主任児童委員、保護司、少年愛護委員などが地域と一体となって防犯パトロール活動を進めていきます。

- ☐ 青少年育成事業
- ☐ 少年愛護センター事業

● 青少年団体などの育成

子ども会やスポーツ少年団などの活動を育成・支援し、青少年団体活動の活性化を行うほか、青少年団体相互の連携と交流を進めます。

- ☐ 青少年育成事業
- ☐ スポーツ少年団活動への支援

● 体験・交流活動を通した子どもの「生きる力」の育成

家庭・学校・地域と連携を図りながら、自然体験や生活体験・社会体験、ボランティア活動、交流活動などに青少年の積極的な参加を促進し、共に活動する喜びを共有するほか、心身をたくましく鍛えるなど、子どもの「生きる力」を培い、人間性を高めます。

また、本市の豊かな自然や、産業、歴史的資産を始め、優れた文化・芸術や職場体験などを通した学習体験活動を行い、感動する活動を通じて、子どもたちの「生きた知識」や「豊かな心」を育てます。

- ☐ 小中一貫教育推進事業
- ☐ 薩摩川内元気塾事業
- ☐ 甕アイランドウォッチング事業の推進
- ☐ 青少年フレッシュ体験事業



わくわく薩摩川内土曜塾（お茶の作法を学ぼう）



少年愛護センター（見守り活動）



青少年フレッシュ体験事業

3 男女共同参画を進めるための学習の推進

【現状と課題】

男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現が求められています。

しかしながら、法律・制度上では男女平等がほぼ達成されつつあるものの、配偶者などによる暴力、性別による固定的な役割分担意識や、これに基づく社会通念や慣行などが依然として根強く残っており、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題となっています。

男女が共に、性別にとらわれることなく、対等な社会の構成員として認め合い、支え合い、あらゆる場において「個人の尊重」と「男女平等」の理念に基づき、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の形成を積極的に進めていく必要があります。

このため、第2次薩摩川内市男女共同参画基本計画に基づき、市民一人ひとりがこうした課題に目を向けながら、男女共同参画について共に考え、課題解決に取り組むための学習を推進していくことが求められています。

【施策の内容】

● 人権尊重を進める学習活動の推進

「個人の尊重」や「男女平等」の実現が重要な課題であるという認識に立ち、男女の基本的な人権を侵害している現状の調査・研究を進めるとともに、改善するための取組を進めます。

また、配偶者等からの暴力やデートDV※についての認識を深めるための学習活動を進めます。

- ☐ 男女共同参画講座の開催
- ☐ 市広報紙を活用した情報提供
- ☐ 男女共同参画フォーラムの開催

※ デートDV

交際中の異性への暴力行為

● 個性と能力を発揮できる学習機会の推進

男女共同参画の視点に立ち「男だから、女だから」といった性別による固定的な役割分担意識を解消するため、社会生活において長年にわたり踏襲されてきた慣行・しきたりについての実態を把握し、ジェンダー※の視点から見直しに向けた学習機会を進めます。

家庭生活と職業生活、地域活動との調和を支援するための各種制度の普及及び学習機会を充実します。

- ☐ 男女共同参画講座の開催
- ☐ 市広報紙を活用した情報提供
- ☐ 男女共同参画フォーラムの開催

※ ジェンダー

生物学的、医学的な性別（sex）に対して、社会的、文化的に形成された性別（gender）のこと

● 雇用の場などにおける男女共同参画意識を育成するための学習の推進

性別にとらわれない雇用環境の確保を行うとともに、就労の場における男女格差を解消し、女性の経営参画や意欲と能力を高めるための研修支援、情報提供などの学習活動を進めます。

- ☐ 男女共同参画講座の開催
- ☐ 市広報紙を活用した情報提供
- ☐ 男女共同参画フォーラムの開催

（関連計画）

- ◇ 第2次薩摩川内市男女共同参画基本計画



男女共同参画フォーラム

4 障害者の学びを進める学習活動の推進

【現状と課題】

福祉に関する学習等の推進については、市民のライフステージに応じた方向性を持って、様々な機会を通じて広く情報を発信し続けることが重要です。

本市では、子どもたちに対しては、道徳教育において、児童生徒の発達の段階に応じてお互いに認め合い、支え合って生きる態度を育成する学習を実施しています。

今後においても、障害者基本法に基づく障害のある児童生徒と障害のない児童生徒の相互理解の促進を踏まえ、小・中学校と特別支援学校等との交流及び共同学習が必要です。

また、障害者や高齢者等の社会的に弱い立場に置かれている人々が、等しく尊重され平等な関係で共生できる社会づくりを目指し、福祉に関する学習等の推進を図ることが必要です。

【施策の内容】

● 障害者に対する生涯学習の機会の拡充

すべての市民が障害や障害者に対する理解を深めるために、福祉に関する学習会、講座等の開催による継続的な取組を推進します。

また、家庭・地域・学校・職場などで行われるすべての活動の中に、障害者を受け入れる体制づくりと障害者に対する動機づけを行っていきます。

- ☐ 学校教育における道徳教育の場での福祉体験学習の拡充
- ☐ 障害福祉に関する学習会等の推進
- ☐ 障害者の積極的な地域交流の推進
- ☐ 各種講座、教室等への障害者の参加促進及び受入れ体制の整備
- ☐ 公民館及び生涯学習推進機関での福祉等に関する学習機会の拡大

● インクルーシブ教育※の推進

障害のある児童生徒への、必要な配慮のもと、インクルーシブ教育を推進します。

- ☐ 児童生徒の発達や障害の状況に応じた教育内容・方法の改善
- ☐ 全教育活動を通した、障害児に対する正しい理解を深めるための学習の推進
- ☐ 心の教育や人権教育の一層の充実
- ☐ 特殊学級、特殊教育から特別支援教育への移行と個に応じた指導

※ インクルーシブ教育

障害のある子どもと障害のない子どもが、共に教育を受けること

5 国際化に対応した学習の推進

【現状と課題】

現在、中国江蘇省常熟市、韓国慶尚南道昌寧郡と友好都市を締結し官民一体となって両市郡との友好関係の継続と経済発展を推進するため、公式訪問団、経済・スポーツ文化交流などの相互交流を実施しています。また、国際理解を深めるため、国際交流協会を中心にした外国語講座、世界の家庭料理教室や伝統行事体験を始め、国際交流員や鹿児島純心女子大学による歴史や国際事情についての講座も開設されています。

また、国際交流員やボランティアによる市内在住外国人のための日本語教室を実施しており、市民レベルで地域に根ざした国際交流・国際協力の推進を図っています。

国際交流に係る関係機関・団体を育成、連携させ、外国語講座受講生の受け入れ、地区コミュニティ協議会や学校での異文化交流の拡大を図り、市内在住外国人が語学講座等に参加しやすい環境づくりを進めるとともに、国際理解を深め多文化共生※の普及推進を行う必要があります。

※ 多文化共生

国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと

【施策の内容】

● 市民主体の国際交流の推進

市民や民間団体の自主性を尊重し、市民の創意工夫と民間活力の導入、民間団体などとの連携を図り、市民レベルでの相互理解と友好親善を推進することによる国際化を目指すとともに、国際化の進展に併せた市民主体の国際交流を進めます。

- ☐ 国際交流員（C I R）による語学支援
- ☐ 外国語指導助手（A L T）による語学支援
- ☐ 小学校英語指導支援員（E S T）による指導支援

● 交流を通じた学習活動の推進

国際化社会に対応した市民の学習活動を推進するため、様々な機会を通して国際理解・外国文化に関する学習活動を推進します。

また、在日外国人と市民との交流を行うことで、在日外国人が日本の暮らしや習慣に親しんでもらうとともに、相互学習を通じた国際感覚の醸成を図ります。

- ☐ 料理教室・伝統行事などを取り入れた国際理解の充実

- ☐ 日中友好薩摩川内市・常熟市青少年スポーツ等交流事業の推進
- ☐ 日韓友好薩摩川内市・昌寧郡青少年スポーツ等交流事業の推進

● 友好都市などとの交流推進

国際文化の理解と相互交流を図るため、様々な機会を活用し、友好都市「中国常熟市」、「韓国昌寧郡」を始めとした諸外国との交流事業を進めます。

また、国際化に伴う各種の交流事業などを通して、市民と外国人が触れ合う場を提供することにより、市民の国際意識を高めるとともに、市内在住の外国人が本市に対する理解を深めることを目指します。

- ☐ 友好都市(常熟市・昌寧郡)との相互交流(派遣・受入)事業

● 外国人支援学習や国際理解のための学習の充実

市内在住外国人のための日本語学習支援を目的とした講習会などの充実を図り、暮らしに役立つ情報の提供や学習の場並びに日常生活における交流の場の拡充に向けた取組を促進します。

また、市民の国際意識の向上や国際化に向けて、国際交流協会及び関係各課所間の連携を密にし、情報や課題の共有化を行い、多文化共生の普及・推進を図ります。

国際交流員（C I R）をうまく活用することで、外国人と地域住民が互いに学び、交流できる環境づくりを目指します。

- ☐ 語学教室
- ☐ 交流・体験事業
- ☐ 国際理解・異文化理解事業



国際交流員による料理教室

6 環境教育・学習の推進

【現状と課題】

本市には、甕島国定公園と川内川流域、藺牟田池の2つの県立自然公園があり、豊かな自然に恵まれています。この貴重な自然や生態系を守り次世代へ引き継ぐことが、現代を生きる私たちの重要な使命です。

一方、今日の環境問題は、身近な生活環境の問題から地球的規模の問題まで多様化しており、持続可能な開発目標（SDGs）の考え方も活用しながら、新たな成長につないでいく必要があります。

このような環境問題を解決していくには、私たち一人ひとりが自分のこととしてこれらの問題を知り、理解し、自主的に取り組んでいくとともに、環境教育や環境学習などを通して環境に対する関心を高めていくことが喫緊の課題です。

今後は、環境教育や環境学習を充実していくため、環境学習に関する指導者を養成するとともに、身近な地域や学校など様々な学習機会の場や学習内容の充実が求められています。

【施策の内容】

● 連携による総合的な環境保全の推進

薩摩川内市環境基本計画に基づき、市民・関係団体が連携を深め、総合的かつ計画的に環境保全を進めます。

また、環境保全活動や環境学習の成果がより多くの市民に、また後世に伝わるための仕組みづくりを構築します。

- ☐ 環境審議会の開催
- ☐ 甕島ツーリズム環境保全部会
- ☐ 衛生自治団体連合会との連携
- ☐ 地区コミュニティ協議会との連携
- ☐ 環境白書の発行

● 環境問題に関する学習機会の拡充の推進

環境問題に関する各種講座や研修会など学習機会を充実するほか、学校での環境教育やこどもエコクラブを始め、市民団体などの自主的な環境学習活動を推進します。

また、自主的な環境活動を支援するため、情報提供を行うほか、環境学習リーダーやアドバイザーなどの指導者を養成します。

- ☐ 快適環境づくり補助金（環境学習、快適な環境づくり活動）
- ☐ 出前講座の実施

- こどもエコクラブへの登録

● **市民の環境意識を高める学習の推進**

地域の生態環境の保全を図るため、希少野生動植物を始め自然環境の大切さについて、学習機会を通じた市民の環境意識の醸成を行います。

- 藺牟田池（ベッコウトンボ頭数調査会、外来魚駆除釣り大会）
- ふるさとクリーン大作戦
- 甕島ツーリズム流木アート工作イベント
- 少年自然の家での体験活動

（関連計画）

- ◇ 環境基本計画
- ◇ 一般廃棄物処理基本計画



外来魚駆除釣り大会



甕島ツーリズム流木アート工作イベント

7 安全・安心のまちづくりを進める学習の推進

【現状と課題】

風水害や地震災害などの自然災害を始め、交通事故・犯罪事件など、市民の生命や身体、財産を脅かす災害などの発生が見られます。市民の生命と財産を守り、市民生活の安全と安心を確保することは行政の責務であり、きめ細やかで効果の高い防災対策を総合的に推進するための体制づくりと基盤整備が極めて重要な課題となっています。他方、市民の側においても「自らの生命・財産は自分で守る」という防災の原点に立ち、自主防災意識を高めていくとともに、安心して生活できる地域防災体制の確立が必要となっています。

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故を契機に、原子力に対する不安が高まっており、避難対策など原子力防災計画を充実するとともに、市民に対して原子力防災に関する学習の推進が必要となっています。

また、本市では凶悪な事件の傾向は表れていないものの、安全・安心な市民生活を確保するためには、市民相互の連帯感を高め、地域ぐるみで防犯活動を推進するという意識を高めていくことが必要です。

さらに、訪問販売やインターネットを利用した取引などによるトラブル・詐欺事件などが数多く発生しているため、消費者自らが主体的な行動を行えるよう支援するとともに、高齢者や若年層を取り巻く交通事故や犯罪が増加する中で、安全で安心して暮らせる社会を形成していくために、市民による防犯や交通安全に関する学習の推進が求められています。

【施策の内容】

● 災害に強いまちづくりに向けた学習の推進

「薩摩川内市地域防災計画」に基づき、災害時に安全で的確な避難行動や災害に対する備えが行えるように必要な講習会・研修会の開催及び学校などでの防災学習や広報による啓発活動などを通じて、市民の防災意識の高揚を図りながら防災知識の普及に関する学習を進めます。

- ☐ 自主防災組織の結成促進
- ☐ 地域防災連絡調整会議の開催
- ☐ 出前講座の実施

● 防火防災意識の高揚に向けた学習の推進

災害時や緊急時には、正確かつ迅速な情報の伝達などによる安全な避難のほか、地域の人々の理解や助け合い及び迅速な対応が重要となります。

そこで、市民の防火防災意識の高揚、原子力防災・放射線の基礎知識の普及を図るとともに、隣保共同の精神と連帯感に基づいて自主防災組織による防災訓練

の実施を推進し、災害の未然防止、被害軽減など地域ぐるみによる防災活動を促進します。また消防局防災研修センターの利用促進を図り、各種の災害を模擬体験することにより、防火防災意識の高揚を図るほか、幼少期からの防火教育に取り組みながら、学校、企業、地区コミュニティ協議会、自治会ぐるみの防火防災意識の高揚を図るための学習を進めます。

さらに、災害時における人的支援体制を進めるため、災害ボランティアの育成・確保のために市民の理解を求めるための啓発に努めるとともに、意識の向上を図る学習を進めます。

併せて、災害ボランティアセンター運営要員の育成や、関係団体等との連携協力体制を構築し、平常時から災害に備え合同災害ボランティアセンターの設置・運営訓練を実施することにより、災害時の円滑なボランティア活動へ繋がる人的・組織的体制の強化を図ります。

また、緊急時における救命率を向上させるため、市民への普通救命講習の受講を積極的に働きかけ、救命知識技術の普及を進めるための学習を行います。

- ☐ 自主防災組織の防災訓練指導
- ☐ 普通救命講習会の実施
- ☐ 災害ボランティアセンター体制の確立
- ☐ 消防局防災研修センターの利用による防火防災指導
- ☐ 幼年・少年消防クラブの防火指導
- ☐ 原子力防災・放射線の基礎知識に係る出前講座の実施

● 防犯と交通安全の意識を高める学習の推進

「安全・安心まちづくり条例」に基づき、市内の関係機関と連携・協力のもと、諸防犯対策を積極的に進めるとともに、「市民安全・安心の日」の啓発など、市民参加による防犯運動や広報活動を通じて、市民一人ひとりの防犯意識の高揚につながる学習活動を進めます。

また、消費生活講座や各種広報により、適切な消費者情報の提供に努め、若者から高齢者までの幅広い年齢層に応じた消費者意識の高揚や正しい知識の普及につながる学習活動を進めます。

さらに、「交通安全教育指針」に即した参加・体験・実践型の交通安全教育などを通じて、子どもや高齢者などの対象者の年齢に応じた技能・知識の習得につながる学習活動を進めます。

- ☐ 薩摩川内市交通安全対策会議・薩摩川内警察署管内交通安全会議・薩摩川内地区防犯協会会議の開催

- 啓発広報活動・街頭立哨・交通安全教室・高齢者ドライビングスクール等の実施
- 全国地域安全運動及び季節地域安全運動・街頭犯罪の防止活動の実施

(関連計画)

- ◇ 国民保護計画
- ◇ 地域防災計画
- ◇ 交通安全計画



自主防災組織の防災訓練



幼年・少年消防クラブの防火指導

8 家庭教育・学習の推進

【現状と課題】

家庭は教育の出発点であり、心身の調和のとれた子供の発達を育む最も身近な社会です。社会情勢が急激な変化を続ける中、育児不安や過干渉・過保護な親がいる一方、ネグレクトや家庭内での児童・幼児虐待も全国で起こっており、問題になっている状況です。

本市では、家庭教育を組織的・効率的に運営するために各学校等に家庭教育学級を設置し、また、家庭教育講演会、子育て講座の開催や子育てサロンを開設し、家庭の教育力向上に向けた取り組みを行っています。今後は、SNSが抱える課題や関わり方等について、親の知識を深める研修も必要になってきます。

家庭教育学級は、子どもとの関わり方の基本的な学習のほか、親子交流に関する学習など様々な取り組みを実施しています。一方、市が主催する家庭教育講演会や研修会等への出席者は、役員など一部に偏る傾向があり、多くの方に参加してもらう取り組みの工夫・改善の必要があります。

また、PTAにおいても、父親研修会や母親部研修会を通して、家庭の教育力向上に努めていますが、家庭・学校・地域等がより一層連携し、子育てを支援する体制づくりも必要です。

「学校支援ボランティア事業」では、地域の方々が持つ技能・特技を活かして、学校の要望に応じた支援活動を行っています。今後も継続しながら、新たに地域と学校の双方向の連携・協働を図る「地域学校協働活動」の充実を図る必要があります。

【施策の内容】

● 地域や社会全体による家庭教育の支援

家庭の教育力向上を図るため、身近な地域において子育てについて学んだり、相談したりする機会の充実を進めるほか、地域・企業を含めた社会全体で支えていく環境の整備を行います。

特に、機関・施設による各種健診、教室や子育てサポーターなどの活用、育児相談や地域の子育てサークル、子育て講座などの充実に努め、地域や社会全体による家庭教育支援を進めます。

□ 家庭教育推進事業

● 家庭教育の支援

不登校児童生徒やその家族の家庭教育の支援を図るために、支援の場やその機能の在り方などについて調査・研究を行うとともに、学校・家庭・地域などの連携・協力を機軸として支援体制・相談体制の充実を進めます。

● **連携・協力による家庭教育の充実**

学校・地域・家庭の連携・協力体制をより充実させるため、学習機会の充実や情報提供、相談事業を実施するほか、子育て家族同士の交流や地域との交流など家庭教育の充実に向けた取組を積極的に進めます。

特に、家庭教育学級の質的・内容的充実を図るために、「自ら学習を希望する親の支援」から「全ての親を対象とした支援」に家庭教育の向上のための支援体制を強めていきます。

□ 家庭教育推進事業



「子育てサロン」読み聞かせ

9 地域の資源を活用した学習の推進

9-1 高等教育機関などとの連携の促進

【現状と課題】

本市には鹿児島純心女子大学と川内職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ川内）の2つの大学・短大があり、鹿児島純心女子大学では、地域貢献活動として人材育成のための講座などを開設しています。一方、川内職業能力開発短期大学校では、職業能力開発に関する総合センターとして、事業主や事業主団体が自ら行う社員教育・研修のために施設を開放し提供しています。

また、本市においては、鹿児島大学及び鹿児島純心女子大学と包括連携に関する協定を締結し、地域社会の発展や人材育成への取組を進めるとともに、本市の教育委員会は、鹿児島純心女子大学と生涯学習に係る協定を締結し、小・中学校における学校教育や出前講座などの実施により、教育活動の充実を図ることとしています。

今後も、これらの事業について、市を始め関係機関と連携を深めるとともに、内容充実を図り、更に新たな連携事業を取り組んでいくことが課題となります。

【施策の内容】

● 大学と連携した講座の充実

大学の持つ高度な学習資源や特色・専門性を生かし、環境問題や少子高齢化など現代的な課題をテーマとしたものや健康づくりなど生活していく上で必要なものなど、現代的課題を取り入れ、一層多彩な講座の開設を行います。

● 施設・人材の活用

近年、全国で行政と大学が連携した生涯学習によるまちづくりが進められています。

鹿児島純心女子大学と川内職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ川内）においては、自主性・自立性を生かした地域への貢献活動や産学官の連携が積極的に図られています。今後とも、各種講座の拡充や大学生ボランティア、大学の文化施設等の開放など、人的・物的資源の一層の提供などを促すとともに、市としても高等教育機関を始め、NPO法人、ボランティア団体、民間事業者などが有する専門的知見を地域の活動や学習に生かすための仕組みやネットワークの形成に努めます。

9-2 地域特性や文化遺産などによる学習の推進

【現状と課題】

本市には国指定史跡の「薩摩国分寺跡」、「清色城跡」や国選定伝統的建造物群保存地区「入来麓伝統的建造物群保存地区」、国指定有形文化財「旧増田家住宅」、無形民俗文化財「東郷文弥節人形浄瑠璃」、天辰寺前古墳公園として現地保存された県指定史跡「天辰寺前古墳」をはじめとした地域の風土が培った多種多様な文化財が有形・無形ともに多数残されています。

また、重要な湿地の生態系を保全する「ラムサール条約」に登録された藺牟田池には国の天然記念物である「藺牟田池の泥炭形成植物群落」、甕島は、国定公園の指定を受け、「ヘゴ自生北限地帯」、「甕島長目の浜及び潟湖群の植物群落」など、学術的にも価値の高い自然環境等にも恵まれ、文化財の保存・継承・活用に取り組んでいます。

そして、日本遺産認定ストーリー「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」の入来麓、里麓、手打麓など構成文化財等の活用も進めています。

本市のもつ文化・文化財・歴史に触れてもらい、郷土愛を育み、文化財愛護意識の高揚を図るため、市民を対象とした文化財少年団、文化財ボランティア団体等の育成を図るとともに、本市の文化財を知る講座（出前講座）を実施・推進します。

【施策の内容】

● 文化財等の保存・継承・活用

指定文化財等の保存・活用を図るため、その文化的価値を広く一般市民に周知するとともに、将来に確実に継承されていくよう保存会だけでなく地域や市民、事業者等による総がかりでまちづくりに生かしながら継承に取り組んでいけるよう、支援体制の構築を図ります。

また、伝統芸能・行事、文化財等を生かしたまちづくりを振興するほか、地域文化の情報発信を促進します。

- ☐ 清色城跡の保存整備の実施
- ☐ 入来麓伝統的建造物群保存地区の修理修景事業や街なみ環境整備事業の実施
- ☐ 日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」
- ☐ 川内川流域の古墳等の調査の実施
- ☐ 川内大綱引の調査報告書を刊行し、更なる保存・活用の実施
- ☐ 文化財の保存活用制度整備の推進

● 自然遺産などを生かした学習活動の推進

「ラムサール条約」に登録された藺牟田池、国の天然記念物「藺牟田池の泥炭形成植物群落」、「甕島長目の浜及び潟湖群の植物群落」、甕島の国定公園など自然遺産を生かした自然観察や学習活動を推進します。

- ☐ 藺牟田池（ベッコウトンボ頭数調査会、外来魚駆除釣り大会）
- ☐ 甕島ツーリズム流木アート工作イベント

● 文化活動の推進

川内歴史資料館や川内まごころ文学館では、郷土ゆかりの歴史資料や人物に関する資料の収集・保存を行うと共に、展示公開の場として歴史・文化学習の拠点に位置づけ、各郷土館や旧増田家住宅などにおいては、地域の歴史文化を発信する場として、その積極的な活用を図ります。

また、魅力ある展示並びに企画展の充実や関連イベント等との連携により、幅広い世代の利活用を推進します。

- ☐ 川内歴史資料館、まごころ文学館等の整備及び利用の促進
- ☐ 各地域の郷土芸能等の保存・伝承活動の推進



川内川流域の古墳等の調査
実施（端陵）



清色城跡の保存整備の実施

第4節 推進体制の充実

1 学習推進体制の充実

【現状と課題】

本市は、有識者等と市で構成する生涯学習推進本部を中心に、地区コミュニティ協議会、自治会、各種団体・企業などと連携し、生涯学習への市民参画を進めています。

生涯学習を進めるに当たっては、市民の自主的な学習活動を基本としているため、市民の生涯学習社会への理解と積極的な学習の取組が大切です。そのためには、市民の多様なニーズを踏まえつつ、市民一人ひとりに的確な情報を提供することが必要です。

また、生涯学習は、教育・文化・人権・福祉・健康・環境・産業・経済・防災など日常生活の多くの領域に直接関係があり、行政各部局では、実際に生涯学習に関連する施策が数多く展開されています。したがって、出前講座のメニューを充実するなど総合的な視点から生涯学習の振興策を考え、市の推進体制を整えることが求められています。

【施策の内容】

● 市民意識の啓発

市民に生涯学習に関する様々な情報を提供し、市民の自主的な学習活動を促進するため、市民意識の啓発を行います。

また、本市が目指す生涯学習の理念を市内の各機関へも周知するほか、本計画の推進に市民が参画できるようにします。

● 団体・関連機関の育成と支援

地区コミュニティ協議会・自治会を始め生涯学習活動を行う団体・関連機関の活動が一層活発になるように、必要な情報提供やネットワークの構築に努めるとともに、リーダーを養成します。

また、地区・地域の生涯学習の気運の醸成を図るため、それぞれが実施する文化祭・生涯学習フェスティバルなどを積極的に支援します。

□ ネットワークの充実

● **推進本部の充実**

生涯学習の有識者や市職員で組織する生涯学習推進本部を中心に、各機関が独自に行ってきた生涯学習活動をネットワーク化し、産学官の連携を進め、組織的に関係機関・団体と連携・協働し生涯学習を進めます。

生涯学習推進本部は、計画の実施について、その検証をするとともに、計画に基づく年度実行計画を推進します。

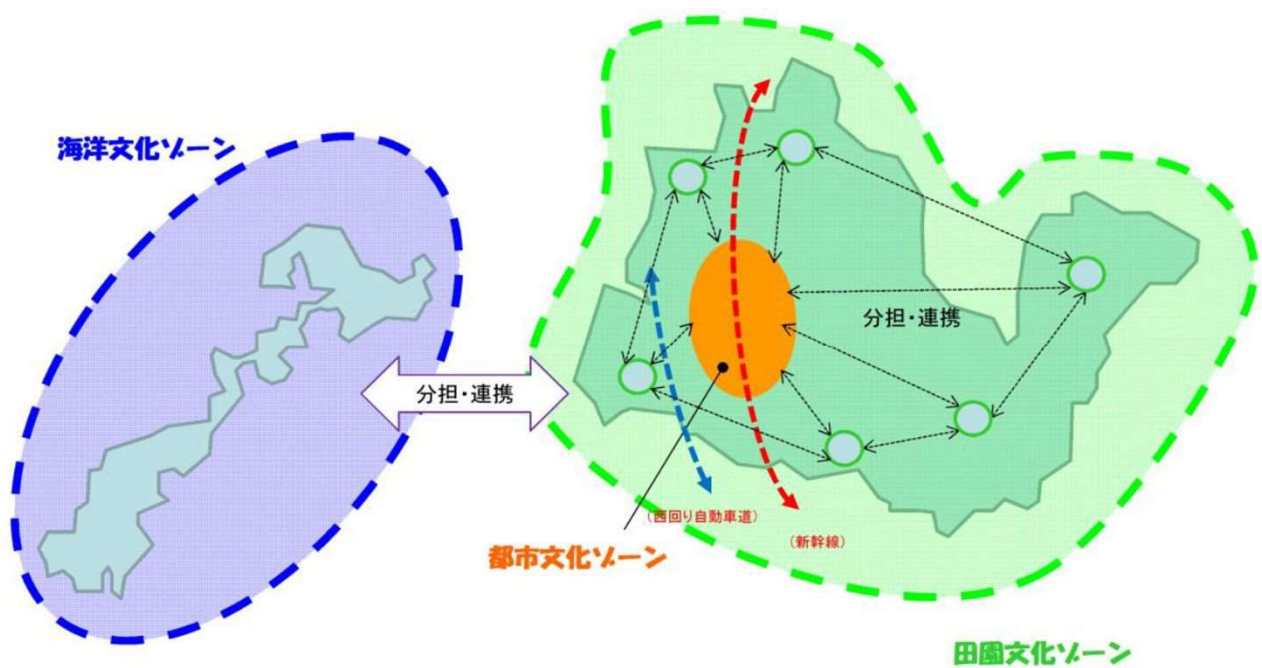
市役所関係課所の職員を任命した生涯学習推進員を中心に、それぞれの行政課題に応じ様々な生涯学習関連事業を総合的に調整します。

□ 生涯学習推進計画の実施・促進



薩摩川内市生涯学習推進本部会議

資料編



生涯学習に関する市民アンケートの分析

市では、平成30年12月に18歳以上の一般市民1,200人及び市政モニター66人を対象にアンケート調査を実施し（回答件数421件、回答率33.2%）、市民の意識・実態やニーズを把握しました。ここでは、それに基づく主な調査結果を以下にまとめ、本市における生涯学習の現状を明らかにします。

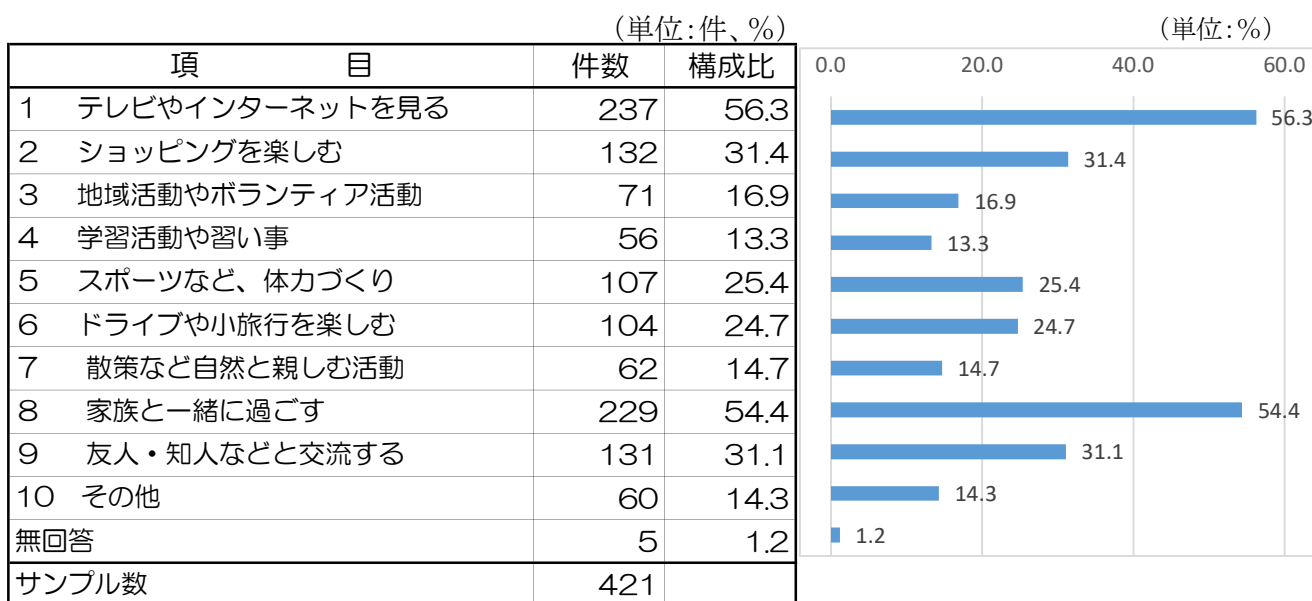
回答件数(サンプル数)

(単位:件)

	18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	未回答	合計
男性	10	17	14	18	56	53	0	168
女性	20	25	37	42	58	57	1	240
未回答	0	1	0	0	3	7	2	13
合計	30	43	51	60	117	117	3	421

1 休日などの余暇の過ごし方

休日などの余暇の過ごし方は、「テレビやインターネットを見る」が56.3%で最も高く、以下、「家族と一緒に過ごす」が54.4%、「ショッピングを楽しむ」が31.4パーセント、「友人・知人などと交流する」が31.1%、となっている。主に自宅で楽しむ娯楽が高率である。その他の主なものは、農作業、ガーデニングであった。



余暇時間の過ごし方(複数回答)

その他の主なもの

- ・農作業
- ・釣り
- ・地域活動
- ・ブログ発信
- ・コスプレ
- ・園芸
- ・温泉
- ・ボランティア活動
- ・映画鑑賞
- ・家庭菜園
- ・子どもの部活(スポーツ少年団)
- ・ゲーム
- ・パチンコ

男性 年代別

構成比(%)

項 目	18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 テレビやインターネットを見る	22.7	20.8	27.3	32.5	18.1	18.7
2 ショッピングを楽しむ	13.6	12.5	9.1	2.5	6.9	2.7
3 地域活動やボランティア活動	0.0	4.2	0.0	15.0	12.5	13.3
4 学習活動や習い事	4.5	4.2	0.0	0.0	5.6	4.0
5 スポーツなど、体力づくり	22.7	8.3	9.1	17.5	8.3	17.3
6 ドライブや小旅行を楽しむ	13.6	14.6	9.1	2.5	8.3	6.7
7 散策など自然と親しむ活動	0.0	2.1	6.1	10.0	3.5	7.3
8 家族と一緒に過ごす	18.2	25.0	24.2	12.5	16.7	15.3
9 友人・知人などとの交流する	4.5	6.3	9.1	2.5	9.0	10.0
10 その他	0.0	2.1	6.1	5.0	11.1	4.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

女性 年代別

構成比(%)

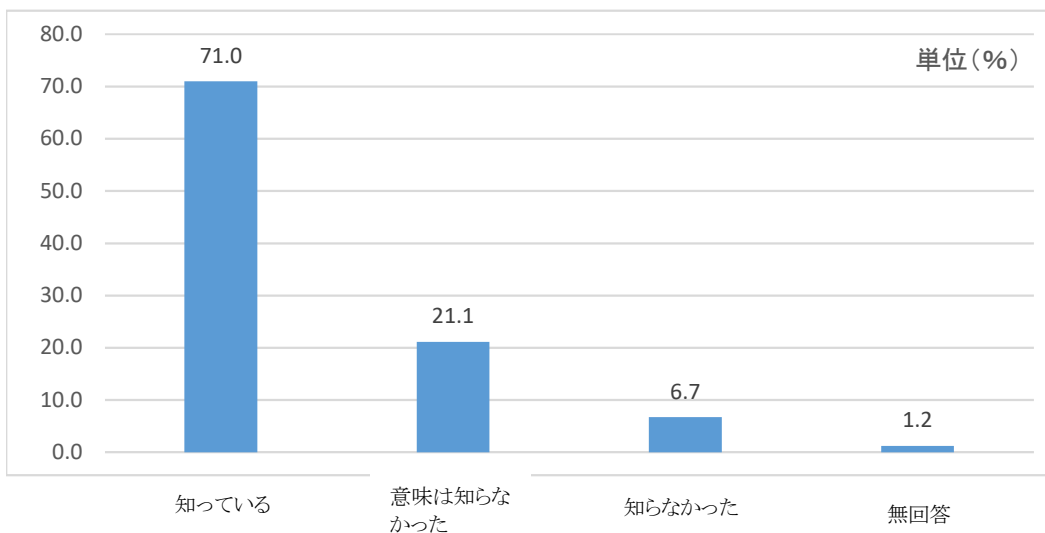
項 目	18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 テレビやインターネットを見る	18.8	25.7	22.1	21.7	18.9	15.9
2 ショッピングを楽しむ	16.3	17.1	18.6	14.8	11.7	11.6
3 地域活動やボランティア活動	1.3	0.0	0.0	1.7	7.2	4.9
4 学習活動や習い事	3.8	4.3	2.7	3.5	7.2	7.9
5 スポーツなど、体力づくり	3.8	1.4	2.7	6.1	7.8	11.0
6 ドライブや小旅行を楽しむ	15.0	8.6	10.6	13.0	7.2	4.9
7 散策など自然と親しむ活動	6.3	1.4	4.4	3.5	7.2	4.3
8 家族と一緒に過ごす	17.5	32.9	25.7	24.3	14.4	16.5
9 友人・知人などとの交流する	16.3	7.1	9.7	6.1	15.6	16.5
10 その他	1.3	1.4	3.5	5.2	2.8	5.5
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2

2 「生涯学習」という言葉の認知度

「生涯学習」という言葉について、「知っている」が71.0%となっており、認知度は高い状況であった。

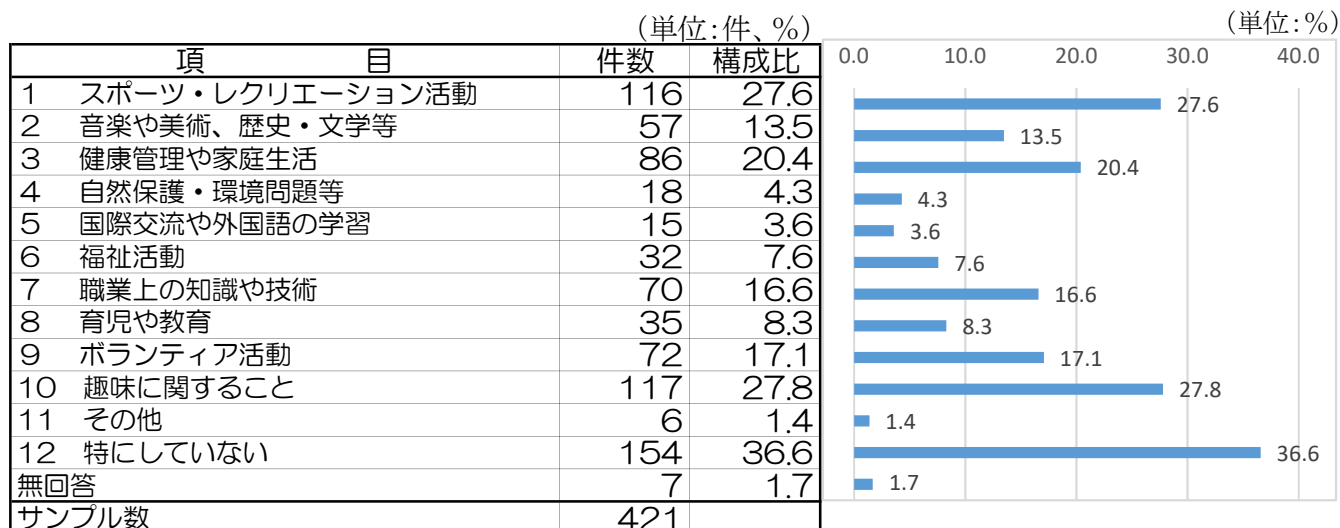
(単位:件、%)

項 目	件数	構成比
知っている	299	71.0
意味は知らなかった	89	21.1
知らなかった	28	6.7
無回答	5	1.2
サンプル数	421	100.0



3 この1年間の生涯学習活動の分野

この1年間の生涯学習活動の状況は、「趣味に関すること」が、27.8%で最も高く、以下、「スポーツ・レクリエーション活動」27.6%、「健康管理や家庭生活」20.4%となっており、「国際交流や外国語の学習」は低調であった。また、全体の36.6%が「特にしていない」と回答している。



この1年間の生涯学習活動分野(複数回答)

男性 年代別

項目	構成比(%)					
	18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 スポーツ・レクリエーション活動	13.6	13.6	10.0	8.0	14.4	18.7
2 音楽や美術、歴史・文学等	9.1	9.1	5.0	4.0	8.8	7.3
3 健康管理や家庭生活	9.1	4.5	5.0	8.0	8.8	12.2
4 自然保護・環境問題等	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	4.9
5 国際交流や外国語の学習	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0
6 福祉活動	4.5	4.5	5.0	4.0	4.0	9.8
7 職業上の知識や技術	13.6	27.3	25.0	20.0	5.6	6.5
8 育児や教育	9.1	13.6	0.0	0.0	1.6	0.0
9 ボランティア活動	0.0	0.0	5.0	12.0	16.0	14.6
10 趣味に関すること	22.7	9.1	15.0	8.0	17.6	13.0
11 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.6
12 特にしていない	18.2	18.2	30.0	36.0	12.8	10.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8

女性 年代別

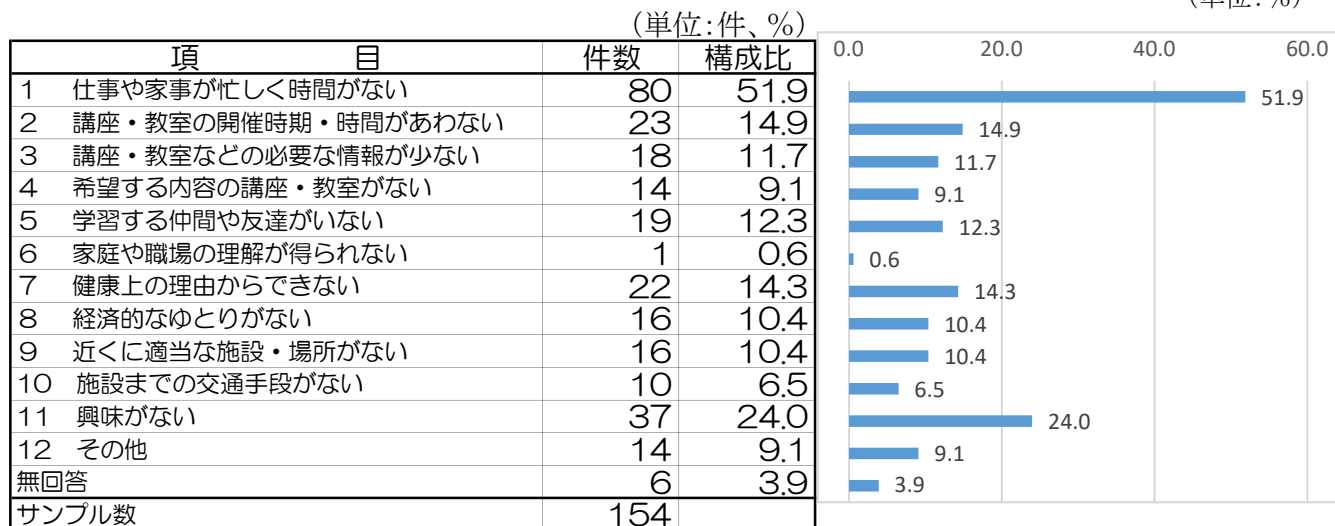
項目	構成比(%)					
	18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 スポーツ・レクリエーション活動	5.4	14.0	9.2	15.5	16.1	20.5
2 音楽や美術、歴史・文学等	10.8	4.0	9.2	2.8	12.7	2.3
3 健康管理や家庭生活	10.8	4.0	7.7	14.1	11.9	19.3
4 自然保護・環境問題等	2.7	2.0	3.1	0.0	1.7	0.0
5 国際交流や外国語の学習	13.5	4.0	3.1	1.4	0.0	0.0
6 福祉活動	0.0	4.0	0.0	4.2	4.2	1.1
7 職業上の知識や技術	8.1	6.0	18.5	5.6	9.3	1.1
8 育児や教育	13.5	20.0	16.9	1.4	0.8	0.0
9 ボランティア活動	2.7	8.0	3.1	2.8	11.9	6.8
10 趣味に関すること	13.5	16.0	9.2	18.3	15.3	17.0
11 その他	0.0	0.0	0.0	1.4	0.8	0.0
12 特にしていない	18.9	18.0	20.0	32.4	14.4	29.5
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	2.3

4 生涯学習活動をしていない理由

生涯学習をしていない理由は、「仕事や家事が忙しく時間がない」が51.9%で最も高い。以下、「興味がない」、「講座・教室の開催時期・時間があわない」、「健康上の理由からできない」の順となっている。

「健康上の理由からできない」は、男女とも70歳以上の割合が高い。

(単位: %)



生涯学習活動をしていない理由(複数回答)

男性 年代別

構成比(%)

項目	18~20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 仕事や家事が忙しく時間がない	50.0	14.3	38.5	37.5	23.3	19.0
2 講座・教室の開催時期・時間があわない	0.0	0.0	7.7	6.3	3.3	0.0
3 講座・教室などの必要な情報が少ない	0.0	0.0	15.4	6.3	6.7	4.8
4 希望する内容の講座・教室がない	0.0	0.0	7.7	6.3	16.7	0.0
5 学習する仲間や友達がいない	0.0	14.3	0.0	6.3	3.3	9.5
6 家庭や職場の理解が得られない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7 健康上の理由からできない	0.0	0.0	0.0	6.3	3.3	19.0
8 経済的なゆとりがない	0.0	14.3	0.0	6.3	3.3	9.5
9 近くに適当な施設・場所がない	0.0	14.3	0.0	0.0	13.3	9.5
10 施設までの交通手段がない	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	4.8
11 興味がない	50.0	14.3	30.8	25.0	23.3	14.3
12 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8
無回答	0.0	14.3	0.0	0.0	3.3	4.8

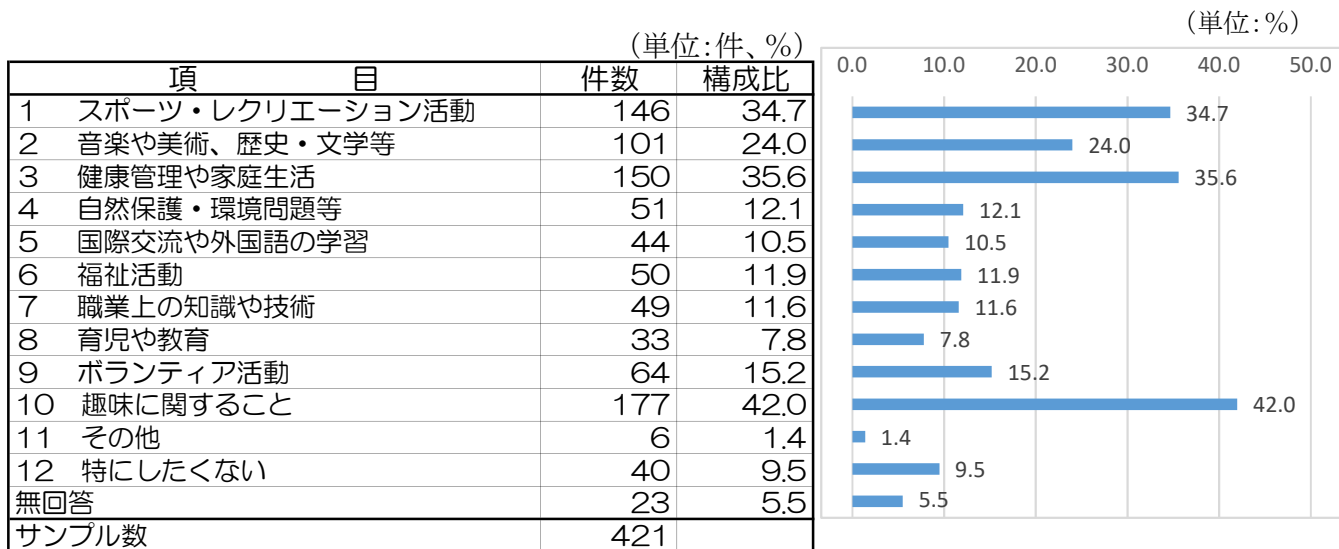
女性 年代別

構成比(%)

項目	18~20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 仕事や家事が忙しく時間がない	27.3	36.4	30.4	40.9	32.4	12.5
2 講座・教室の開催時期・時間があわない	9.1	4.5	17.4	20.5	14.7	0.0
3 講座・教室などの必要な情報が少ない	0.0	4.5	13.0	6.8	8.8	2.5
4 希望する内容の講座・教室がない	0.0	4.5	4.3	6.8	5.9	0.0
5 学習する仲間や友達がいない	9.1	9.1	0.0	6.8	11.8	7.5
6 家庭や職場の理解が得られない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5
7 健康上の理由からできない	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	30.0
8 経済的なゆとりがない	9.1	18.2	4.3	4.5	5.9	2.5
9 近くに適当な施設・場所がない	0.0	0.0	4.3	6.8	2.9	7.5
10 施設までの交通手段がない	0.0	4.5	4.3	0.0	2.9	7.5
11 興味がない	27.3	13.6	13.0	6.8	0.0	2.5
12 その他	18.2	4.5	8.7	0.0	2.9	17.5
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.5

5 今後活動したい生涯学習の分野

今後活動したい学習分野では、「趣味に関すること」が42.0%、「健康管理や家庭生活」が35.6%、「スポーツ・レクリエーション活動」34.7%の順となった。男性・女性共に、「趣味に関すること」が30歳代以上高率となっている。一方、「育児や教育」については、低調となる。



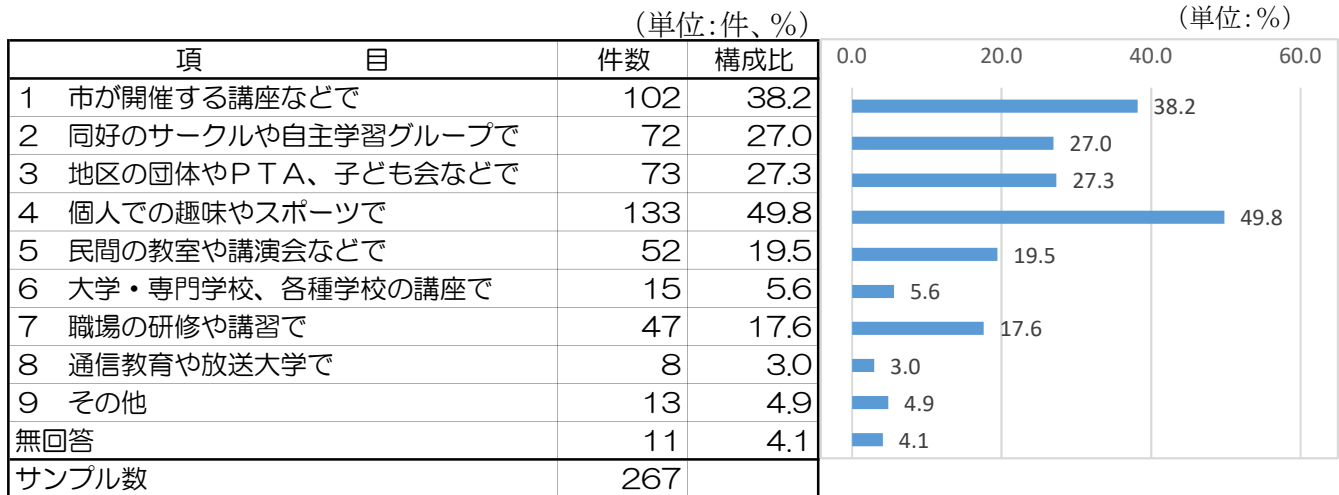
今後活動したい生涯学習分野(複数回答)

男性 年代別		構成比(%)					
項	目	18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	スポーツ・レクリエーション活動	23.8	16.7	22.2	26.9	16.0	17.1
2	音楽や美術、歴史・文学等	19.0	6.7	11.1	3.8	12.7	7.3
3	健康管理や家庭生活	9.5	6.7	18.5	3.8	10.7	22.0
4	自然保護・環境問題等	0.0	3.3	7.4	0.0	8.7	8.9
5	国際交流や外国語の学習	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	1.6
6	福祉活動	0.0	6.7	3.7	3.8	6.7	7.3
7	職業上の知識や技術	9.5	26.7	3.7	15.4	4.7	2.4
8	育児や教育	9.5	6.7	3.7	3.8	0.7	0.0
9	ボランティア活動	9.5	3.3	0.0	7.7	12.0	8.9
10	趣味に関すること	4.8	16.7	25.9	19.2	19.3	14.6
11	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.6
12	特にしたくない	4.8	3.3	3.7	15.4	3.3	3.3
無回答		9.5	3.3	0.0	0.0	0.0	4.9

女性 年代別		構成比(%)					
項	目	18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	スポーツ・レクリエーション活動	13.1	19.2	14.0	16.2	14.3	10.0
2	音楽や美術、歴史・文学等	16.4	13.5	12.9	10.5	11.3	7.8
3	健康管理や家庭生活	13.1	13.5	14.0	17.1	18.0	25.6
4	自然保護・環境問題等	3.3	1.9	2.2	4.8	7.5	4.4
5	国際交流や外国語の学習	9.8	9.6	11.8	6.7	3.8	1.1
6	福祉活動	6.6	1.9	1.1	5.7	6.8	5.6
7	職業上の知識や技術	3.3	7.7	8.6	3.8	2.3	0.0
8	育児や教育	9.8	9.6	11.8	2.9	0.8	0.0
9	ボランティア活動	4.9	3.8	1.1	7.6	9.0	2.2
10	趣味に関すること	16.4	17.3	19.4	21.0	22.6	21.1
11	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3
12	特にしたくない	3.3	1.9	3.2	1.9	2.3	11.1
無回答		0.0	0.0	0.0	1.9	1.5	7.8

6 生涯学習の活動方法

生涯学習の活動方法は、「個人での趣味やスポーツで」49.8%、「市が開催する講座などで」38.2%、「地区の団体やPTA、子ども会などで」27.3%、「同好のサークルや自主学習グループで」27.0%の順となっており、身近な機会を捉えて生涯学習に取り組んでいる様子がみられる。一方、「大学・専門学校、各種学校の講座で」、「通信教育や放送大学で」は低い水準となっている。



生涯学習の活動方法(複数回答)

男性 年代別

構成比(%)

項 目	18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 市が開催する講座などで	0.0	0.0	0.0	0.0	20.5	20.7
2 同好のサークルや自主学習グループで	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5	23.2
3 地区の団体やPTA、子ども会などで	0.0	11.1	7.1	21.4	16.7	22.0
4 個人での趣味やスポーツで	66.7	38.9	35.7	42.9	30.8	23.2
5 民間の教室や講演会などで	0.0	0.0	14.3	0.0	3.8	6.1
6 大学・専門学校、各種学校の講座で	11.1	5.6	0.0	0.0	1.3	1.2
7 職場の研修や講習で	11.1	22.2	35.7	28.6	10.3	0.0
8 通信教育や放送大学で	0.0	5.6	7.1	0.0	1.3	0.0
9 その他	11.1	5.6	0.0	7.1	2.6	1.2
無回答	0.0	11.1	0.0	0.0	1.3	2.4

女性 年代別

構成比(%)

項 目	18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 市が開催する講座などで	8.3	32.3	25.4	17.1	24.4	21.6
2 同好のサークルや自主学習グループで	12.5	16.1	1.7	12.2	16.3	25.5
3 地区の団体やPTA、子ども会などで	12.5	12.9	16.9	9.8	9.3	9.8
4 個人での趣味やスポーツで	16.7	22.6	16.9	24.4	22.1	25.5
5 民間の教室や講演会などで	16.7	9.7	10.2	22.0	16.3	9.8
6 大学・専門学校、各種学校の講座で	20.8	3.2	3.4	0.0	1.2	2.0
7 職場の研修や講習で	8.3	0.0	15.3	7.3	9.3	0.0
8 通信教育や放送大学で	0.0	0.0	6.8	2.4	0.0	0.0
9 その他	4.2	0.0	3.4	4.9	0.0	2.0
無回答	0.0	3.2	0.0	0.0	1.2	3.9

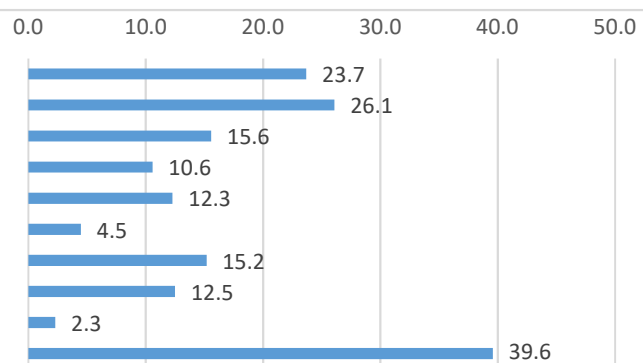
7 現在、生涯学習活動をしている時間帯

現在、生涯学習活動をしている時間帯は、「平日の午後」が26.1%で最も高く、「平日の午前」が23.7%、「平日の夜間」が15.6%となっている。

(単位:件、%)

(単位:%)

項 目	件数	構成比
1 平日の午前	100	23.7
2 平日の午後	110	26.1
3 平日の夜間	66	15.6
4 土曜日の午前	45	10.6
5 土曜日の午後	52	12.3
6 土曜日の夜間	19	4.5
7 日曜日の午前	64	15.2
8 日曜日の午後	53	12.5
9 日曜日の夜間	10	2.3
無回答	167	39.6
サンプル数	421	



生涯学習をしている時間帯(複数回答)

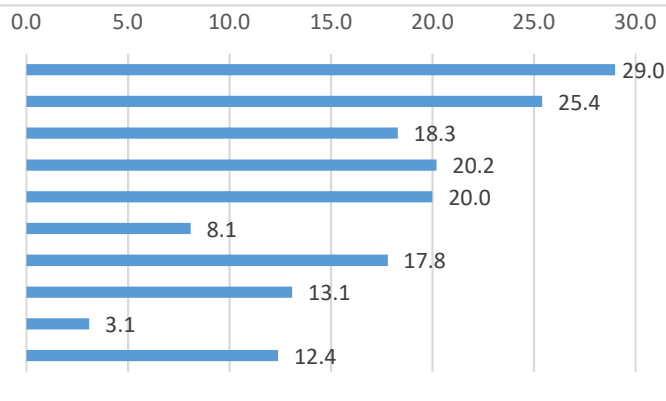
8 今後、生涯学習活動をしたい時間帯

今後、生涯学習活動をしたい時間帯は、「平日の午前」が29.0%で最も高く、「平日の午後」が25.4%、「土曜日の午前」が20.2%となっている。

(単位:件、%)

(単位:%)

項 目	件数	構成比
1 平日の午前	122	29.0
2 平日の午後	107	25.4
3 平日の夜間	77	18.3
4 土曜日の午前	85	20.2
5 土曜日の午後	84	20.0
6 土曜日の夜間	34	8.1
7 日曜日の午前	75	17.8
8 日曜日の午後	55	13.1
9 日曜日の夜間	13	3.1
無回答	52	12.4
サンプル数	421	

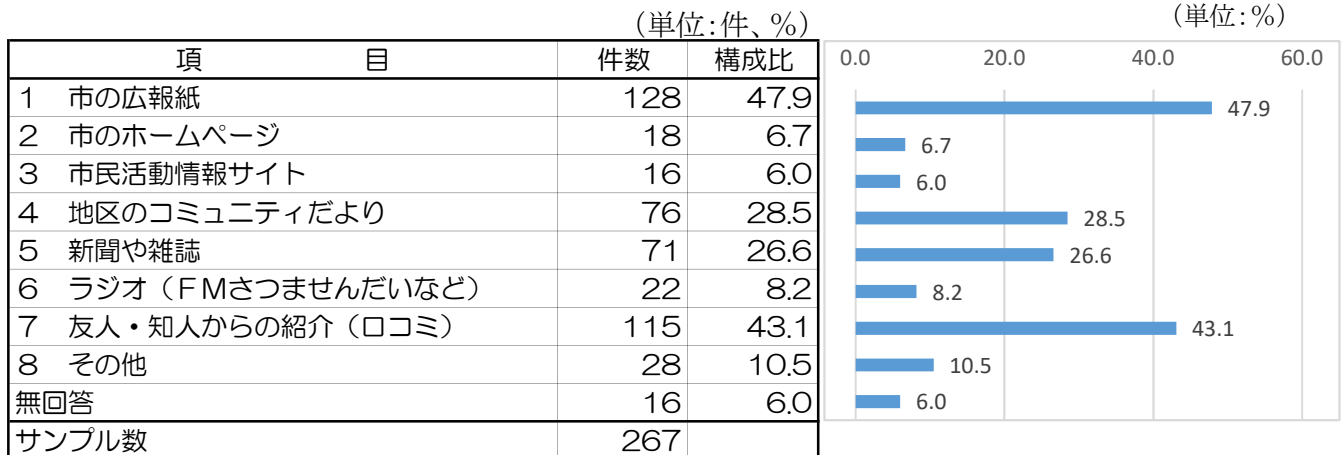


今後、生涯学習をしたい時間帯(複数回答)

現在の活動時間帯と今後希望する活動時間帯の変化を見ると、「土曜日の午前」、「土曜日の午後」が7%以上の上昇率となっている。

9 各種講座や教室などの情報取得

各種講座や教室などの情報は、「市の広報紙」が47.9%、「友人・知人からの紹介(口コミ)」が43.1%、「地区のコミュニティだより」28.5%となっている。「市のホームページ」、「市民活動情報サイト」からの情報取得は低率となっている。



各種講座や教室などの情報取得(複数回答)

男性 年代別

構成比(%)

項 目	18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 市の広報紙	20.0	26.7	16.7	18.8	29.6	27.3
2 市のホームページ	0.0	0.0	16.7	18.8	6.2	1.3
3 市民活動情報サイト	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	3.9
4 地区のコミュニティだより	0.0	6.7	8.3	6.3	16.0	24.7
5 新聞や雑誌	20.0	6.7	8.3	25.0	18.5	14.3
6 ラジオ (FMさつまさんだいなど)	10.0	0.0	16.7	6.3	2.5	3.9
7 友人・知人からの紹介 (口コミ)	30.0	26.7	16.7	25.0	16.0	18.2
8 その他	20.0	26.7	16.7	0.0	3.7	2.6
無回答	0.0	6.7	0.0	0.0	3.7	3.9

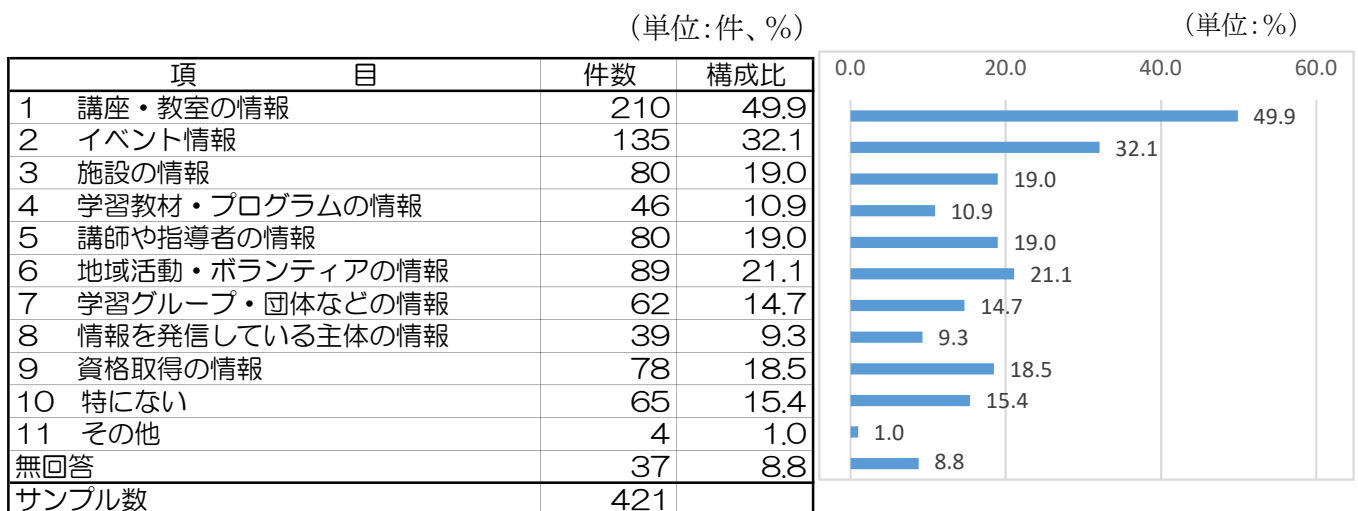
女性 年代別

構成比(%)

項 目	18～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 市の広報紙	20.0	24.0	26.0	23.8	30.4	24.5
2 市のホームページ	5.0	4.0	4.0	2.4	1.3	0.0
3 市民活動情報サイト	5.0	4.0	2.0	4.8	5.1	0.0
4 地区のコミュニティだより	10.0	8.0	10.0	14.3	15.2	22.4
5 新聞や雑誌	10.0	8.0	20.0	16.7	11.4	12.2
6 ラジオ (FMさつまさんだいなど)	0.0	4.0	2.0	7.1	5.1	6.1
7 友人・知人からの紹介 (口コミ)	35.0	32.0	28.0	26.2	26.6	26.5
8 その他	15.0	12.0	8.0	4.8	1.3	4.1
無回答	0.0	4.0	0.0	0.0	3.8	4.1

10 生涯学習に関する情報のニーズ

どのような「生涯学習」に関する情報を望んでいるかについては、「講座・教室の情報」が49.9%と最も高く、「イベント情報」が32.1%、「地域活動・ボランティアの情報」が21.1%と続いている。



各種講座や教室などの情報取得(複数回答)

男性 年代別

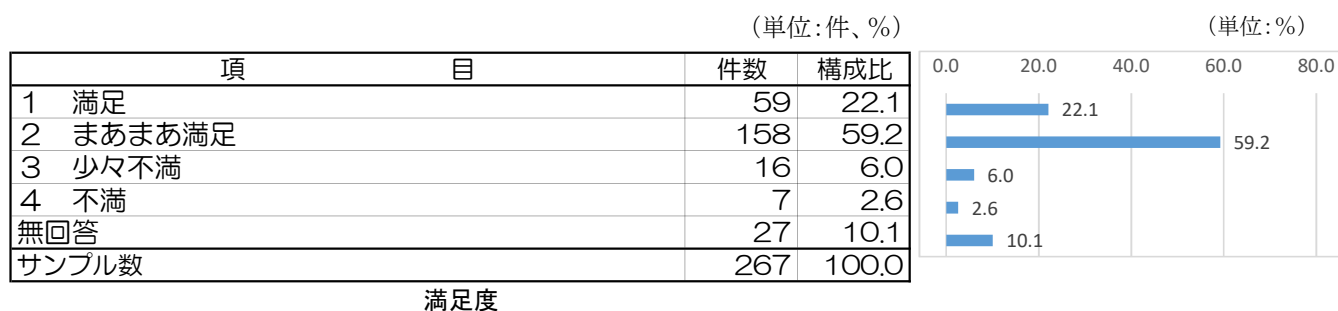
項 目	構成比(%)					
	18~20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 講座・教室の情報	26.3	7.1	22.2	25.0	16.5	19.6
2 イベント情報	21.1	28.6	14.8	8.3	16.5	12.5
3 施設の情報	15.8	3.6	7.4	12.5	8.3	8.0
4 学習教材・プログラムの情報	0.0	0.0	11.1	4.2	5.8	3.6
5 講師や指導者の情報	0.0	3.6	3.7	4.2	8.3	6.3
6 地域活動・ボランティアの情報	0.0	3.6	3.7	8.3	17.4	17.0
7 学習グループ・団体などの情報	0.0	7.1	7.4	4.2	7.4	8.9
8 情報を発信している主体の情報	0.0	3.6	3.7	4.2	1.7	2.7
9 資格取得の情報	10.5	25.0	18.5	12.5	5.8	3.6
10 特にない	15.8	17.9	3.7	12.5	9.9	9.8
11 その他	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0
無回答	10.5	0.0	3.7	4.2	0.8	8.0

女性 年代別

項 目	構成比(%)					
	18~20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 講座・教室の情報	21.7	26.6	26.0	26.8	28.9	18.3
2 イベント情報	15.2	18.8	14.4	14.6	13.4	8.6
3 施設の情報	8.7	6.3	9.6	12.2	5.6	10.8
4 学習教材・プログラムの情報	4.3	6.3	7.7	6.5	4.2	3.2
5 講師や指導者の情報	6.5	9.4	10.6	13.0	12.7	6.5
6 地域活動・ボランティアの情報	8.7	7.8	1.0	4.1	13.4	9.7
7 学習グループ・団体などの情報	2.2	3.1	5.8	8.1	7.0	7.5
8 情報を発信している主体の情報	6.5	4.7	8.7	3.3	6.3	3.2
9 資格取得の情報	19.6	14.1	12.5	8.1	3.5	2.2
10 特にない	4.3	3.1	2.9	1.6	2.8	14.0
11 その他	2.2	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0
無回答	0.0	0.0	1.0	1.6	1.4	16.1

1 1 各種講座や教室の満足度

各種講座・教室の満足度は、「まあまあ満足」が59.2%で、「満足」が22.1%で合わせると81.3%が満足と回答している。



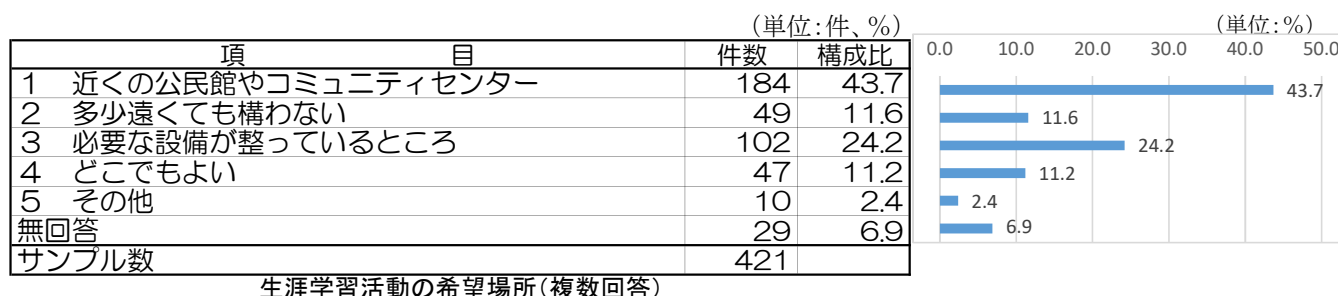
1 2 生涯学習を充実させるための必要事項

生涯学習活動を充実させていくために必要な事項は、「教室・講座などの充実」が39.4%、「活動施設の充実」が35.6%、「生涯学習の情報提供の充実」が34.2%となっている。



1 3 生涯学習活動の希望場所

生涯学習活動の希望場所は、「近くの公民館やコミュニティセンター」が43.7%と過半数近くとなっている。



1 4 今後の生涯学習の主体

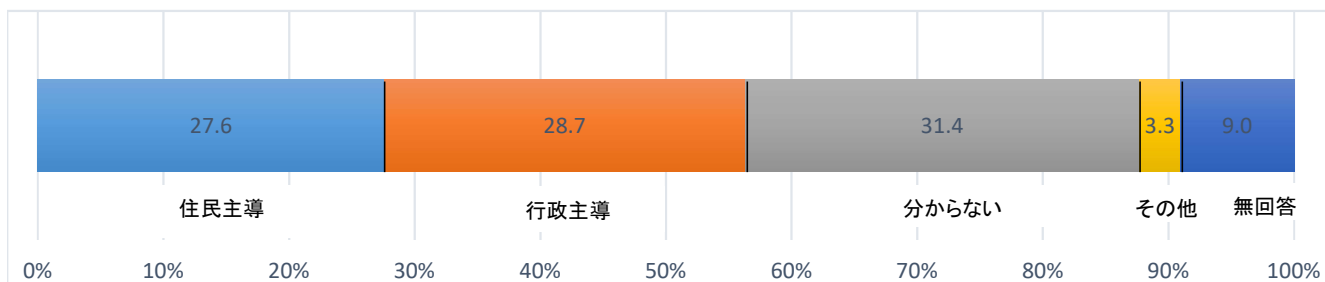
今後、生涯学習を進めるべき主体については、「わからない」が31.4%、「行政主導」が28.7%、「住民主導」が27.6%であった。その他の主なものは、「住民と行政が合同で進めるべき」との回答であった。

(単位:件、%)

項 目	件数	構成比
1 住民主導で進める	116	27.6
2 行政主導で進める	121	28.7
3 分からない	132	31.4
4 その他	14	3.3
無回答	38	9.0
サンプル数	421	100.0

今後の生涯学習の主体

(単位:%)



1 5 教材・材料費以外の費用負担額

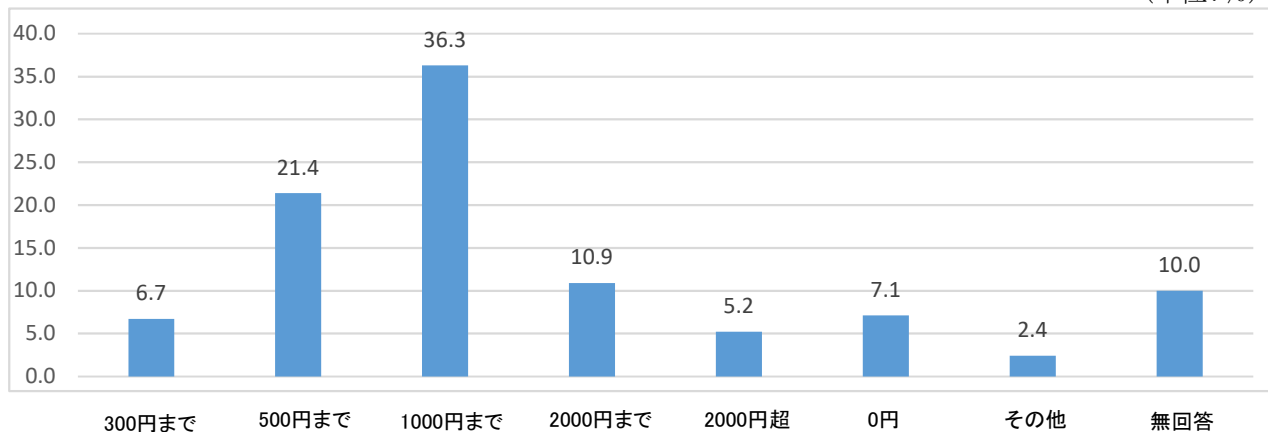
教材・材料費以外の費用負担額は、「1,000円まで」が36.3%、「500円まで」が21.4%となっている。一方、「負担したくない」は7.1%であり、一定の費用負担については、許容する結果となった。

(単位:件、%)

項 目	件数	構成比
1 300円まで	28	6.7
2 500円まで	90	21.4
3 1,000円まで	153	36.3
4 2,000円まで	46	10.9
5 2,000円を超えてもよい	22	5.2
6 負担したくない	30	7.1
7 その他	10	2.4
無回答	42	10.0
サンプル数	421	100.0

教材・材料費以外の費用負担額

(単位:%)



■「生涯学習」という言葉の認知度 (単位: %)

項 目	19年度	26年度	30年度
知っている	74.6	77.6	71.0
意味は知らなかった	11.4	16.6	21.1
知らなかった	9.6	4.5	6.7
無回答	4.4	1.3	1.2

■満足度 (単位: %)

項 目	19年度	26年度	30年度
1 満足	8.0	19.8	22.1
2 まあまあ満足	21.0	52.5	59.2
3 少々不満	4.4	8.0	6.0
4 不満	0.8	1.5	2.6
無回答	65.8	18.1	10.1

■休日などの余暇の過ごし方 (単位: %)

項 目	19年度	26年度	30年度
1 テレビや雑誌を見てのんびりする	51.8	53.7	56.3
2 ショッピングを楽しむ	20.6	28.8	31.4
3 地域活動やボランティア活動	10.6	26.4	16.9
4 学習活動や習い事	7.0	12.1	13.3
5 スポーツなど、体力づくり	16.4	19.7	25.4
6 ドライブや小旅行を楽しむ	16.2	22.8	24.7
7 散歩など自然と親しむ活動	18	14.2	14.7
8 家族と一緒に過ごす	46.4	44.5	54.4
9 友人・知人などと交流する	32.2	31.0	31.1
10 その他	21	15.8	14.3

■生涯学習の活動方法 (単位: %)

項 目	19年度	26年度	30年度
1 市が開催する講座などで	19.6	36.1	38.2
2 同好のサークルや自主学習グループで	25.9	31.4	27.0
3 地区の団体やPTA、子ども会などで	25.1	38.8	27.3
4 個人での趣味やスポーツで	43.1	38.4	49.8
5 民間の教室や講演会などで	13.7	14.1	19.5
6 大学・専門学校、各種学校の講座で	2.0	2.3	5.6
7 職場の研修や講習で	15.3	13.9	17.6
8 通信教育や放送大学で	2.4	1.7	3.0
9 その他	4.7	1.5	4.9

■過去1年間の生涯学習活動 (単位: %)

項 目	19年度	26年度	30年度
1 スポーツ・レクリエーション活動	29.0	33.6	27.6
2 音楽や美術、歴史・文学等	11.4	12.2	13.5
3 健康管理や家庭生活	21.4	20.6	20.4
4 自然保護・環境問題等	6.2	4.9	4.3
5 国際交流や外国語の学習	1.4	1.3	3.6
6 福祉活動	7.4	11.3	7.6
7 職業上の知識や技術	14.8	11.2	16.6
8 育児や教育	4.2	6.9	8.3
9 ボランティア活動	12.0	27.9	17.1
10 趣味に関すること	20.0	28.8	27.8

■今後したい生涯学習活動 (単位: %)

項 目	19年度	26年度	30年度
1 スポーツ・レクリエーション活動	37.2	31.8	34.7
2 音楽や美術、歴史・文学等	19.0	18.5	24.0
3 健康管理や家庭生活	35.6	26.9	35.6
4 自然保護・環境問題等	17.2	10.1	12.1
5 国際交流や外国語の学習	6.2	4.3	10.5
6 福祉活動	11.8	12.1	11.9
7 職業上の知識や技術	16.0	9.9	11.6
8 育児や教育	4.4	5.5	7.8
9 ボランティア活動	9.2	21.3	15.2
10 趣味に関すること	26.0	37.5	42.0

■充実させるための必要事項 (単位: %)

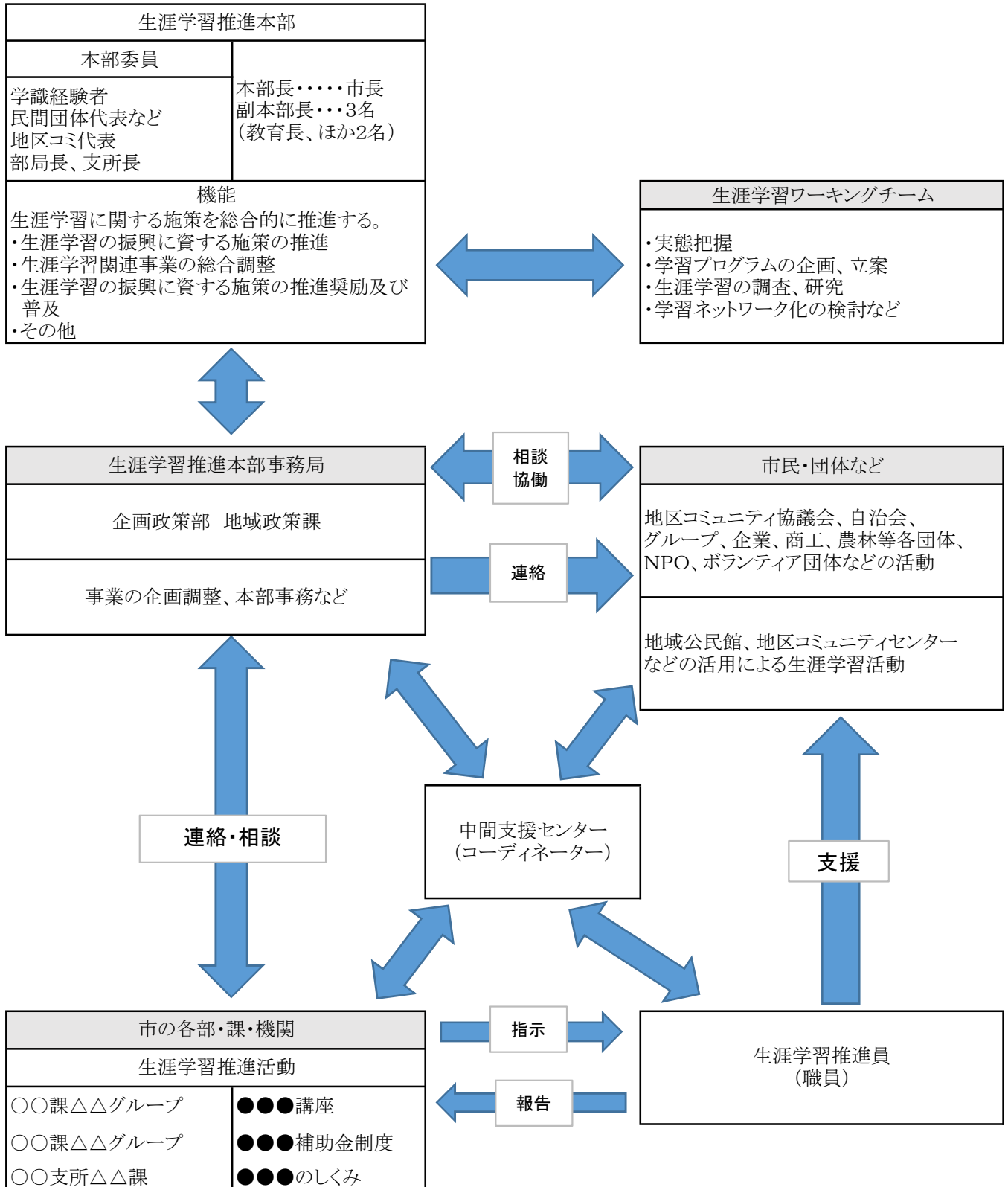
項 目	19年度	26年度	30年度
1 活動施設の充実	29.6	26.3	35.6
2 教室・講座などの充実	32.0	33.9	39.4
3 市民、学校等との連携・協力	12.4	12.2	14.5
4 学校の空き教室を利用する	8.0	12.1	19.2
5 自主活動グループ・サークルへの支援	21.4	21.6	25.2
6 民間施設利用の際の支援	15.8	10.3	15.9
7 指導者の養成	24.6	22.8	25.9
8 生涯学習の情報提供の充実	39.8	30.4	34.2
9 学習成果の発表・活用場のづくり	12.2	9.7	7.4
10 その他	5.4	5.1	1.9

■教材・材料費以外の費用負担額 (単位: %)

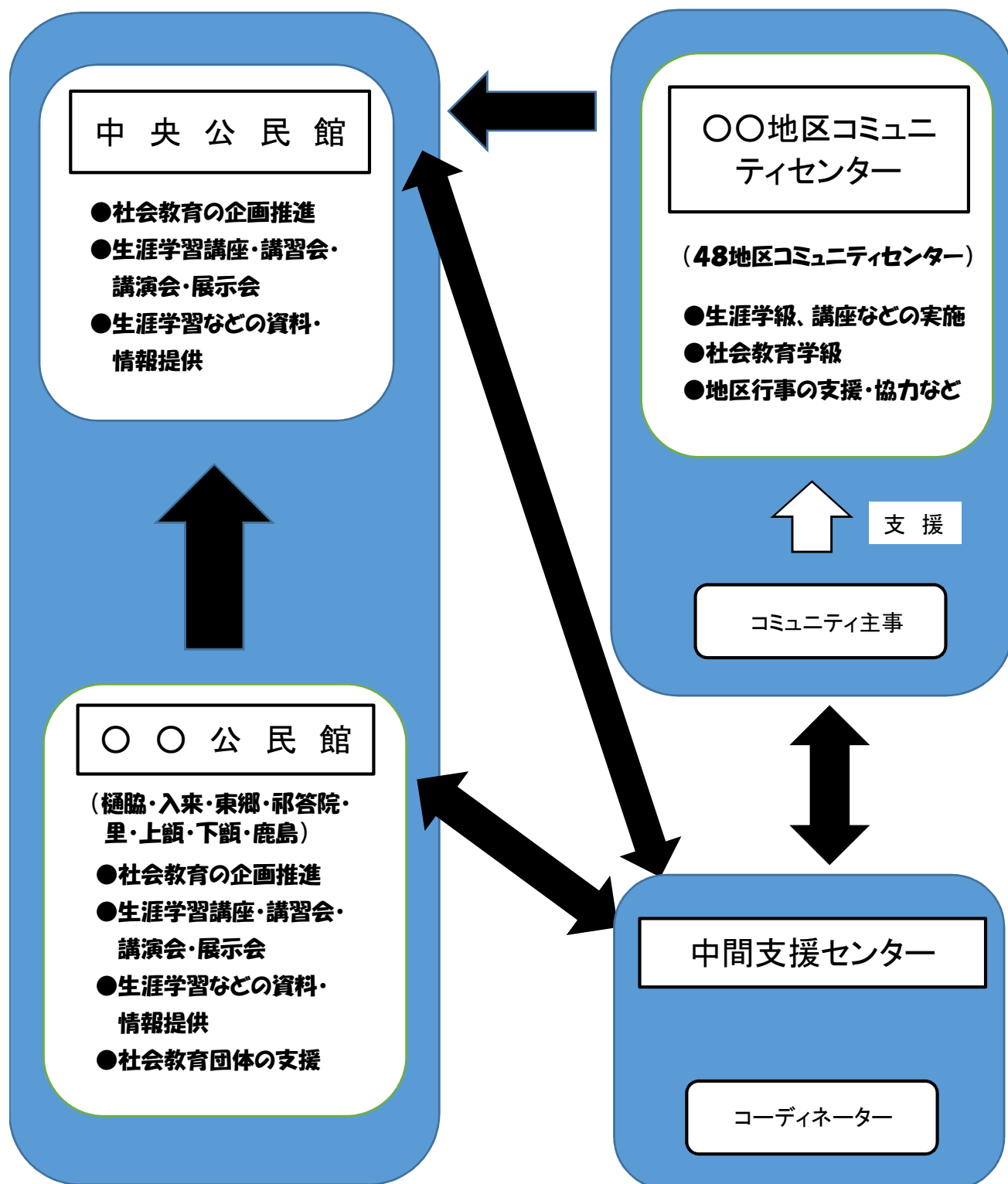
項 目	19年度	26年度	30年度
1 300円まで	6.8	8.5	6.7
2 500円まで	32.0	31.5	21.4
3 1,000円まで	32.8	30.6	36.3
4 2,000円まで	6.8	6.6	10.9
5 2,000円を超えてもよい	2.4	3.9	5.2
6 負担したくない	6.6	3.9	7.1
7 その他	0.0	2.8	2.4
無回答	12.6	12.2	10.0

薩摩川内市生涯学習推進体制

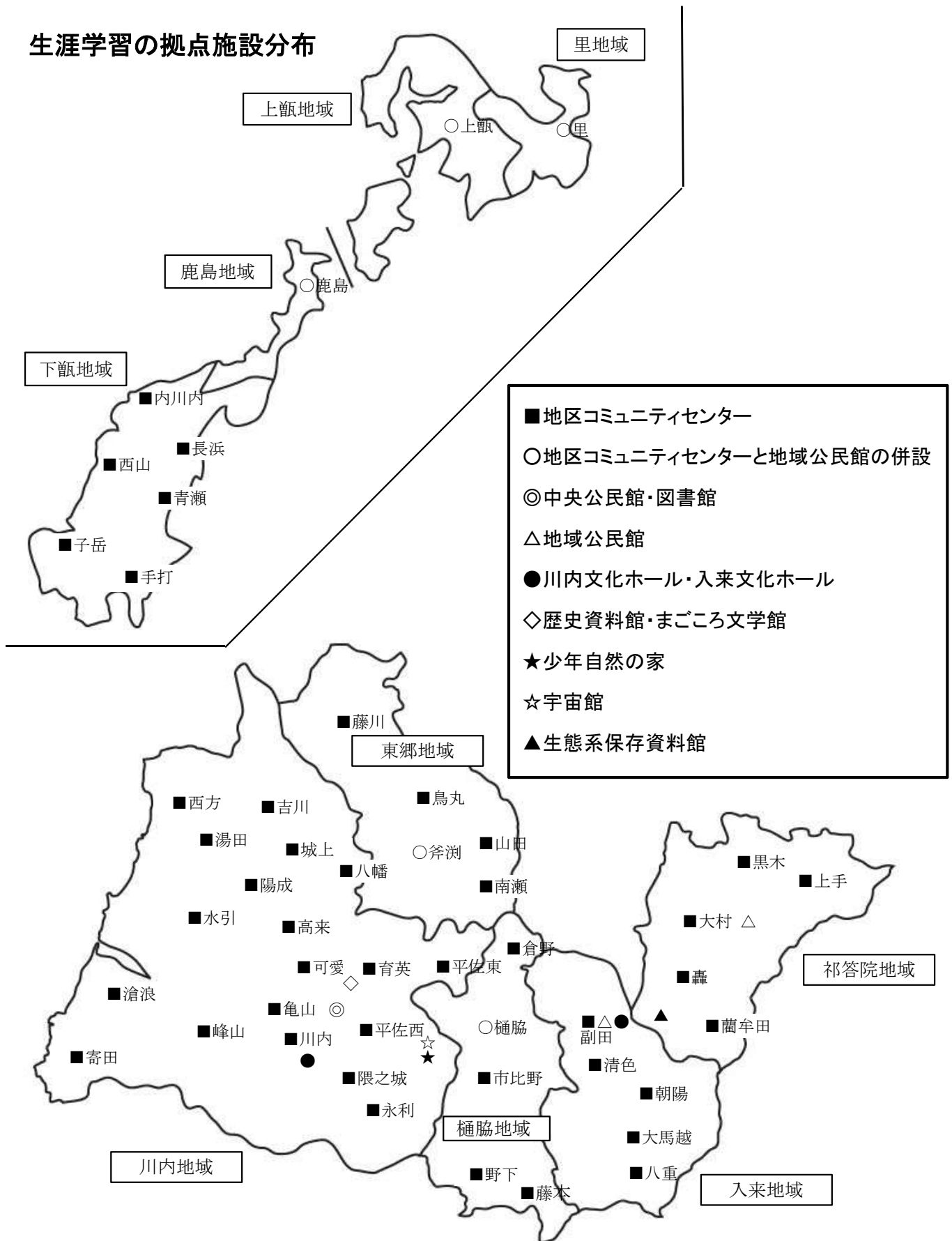
- 1 生涯学習を積極的に進めるため、生涯学習推進本部を設置する。
- 2 学習の拠点は、地域公民館や地区コミュニティセンターなどである。
- 3 活動の支援は、推進本部事務局である地域政策課を窓口とする。



生涯学習の拠点施設



生涯学習の拠点施設分布



事業計画の所管など

事業計画	課・所	事業など 記載ページ
自主防災組織の結成促進	防災安全課	48
地域防災連絡調整会議の開催		48
出前講座の実施		48
原子力防災・放射線の基礎知識に係る出前講座の実施		49
薩摩川内市交通安全対策会議・薩摩川内警察署管内交通安全会議・薩摩川内地区防犯協会会議の開催		49
啓発広報活動・街頭立哨・交通安全教室・高齢者ドライビングスクール等の実施		50
全国地域安全運動及び季節地域安全運動・街頭犯罪の防止活動の実施		50
国民保護計画【別冊】		50
地域防災計画【別冊】		50
交通安全計画【別冊】		50
地区コミュニティ協議会における青壮年の参画への支援	地域政策課	16
地区コミュニティ協議会における高齢者学習講座などの充実		18
地区コミュニティ協議会・自治会などによる世代間交流事業の充実		19
地区コミュニティ協議会への学習支援		25・28
まちづくり出前講座の充実		25
地域活性化のための研修会の充実		25
地区コミュニティセンターの適切な補修・維持管理		26
公益事業者などによる生涯学習機能の効率化		26
市及び地区コミュニティ協議会などによる生涯学習フェスティバルの開催		28
まちづくり出前講座の積極的活用		28
薩摩川内市ボランティアセンターへの支援		28
市民活動ネットワーク会議の開催		29
市民活動センターの運営		29
ネットワークを向上させるための場の提供		30
生涯学習ワーキングチームの充実強化		30
市民活動情報サイトの充実		32・33
インターネット環境整備の充実		33
市民活動センターでの情報提供や相談業務		33
ネットワークの充実		56
生涯学習推進計画の実施・促進		57
男女共同参画講座の開催	ひとみらい政策課	41・42
市広報紙を活用した情報提供		41・42
男女共同参画フォーラムの開催		41・42
第2次薩摩川内市男女共同参画基本計画【別冊】		42
環境審議会の開催	環境課	46
甌島ツーリズム環境保全部会		46
衛生自治団体連合会との連携		46
地区コミュニティ協議会との連携		46
環境白書の発行		46

事業計画の所管など

事業計画	課・所	事業など 記載ページ
快適環境づくり補助金(環境学習、快適な環境づくり活動)	環境課	46
出前講座の実施		46
こどもエコクラブへの登録		47
藺牟田池(ベッコウトンボ頭数調査会、外来魚駆除釣り大会)		47・55
ふるさとクリーン大作戦		47
甌島ツーリズム流木アート工作イベント		47・55
環境基本計画【別冊】		47
一般廃棄物処理基本計画【別冊】		47
健康教育・健康相談の実施	市民健康課	21
こころの健康相談		21
こころの健康づくり講演会		21
働く世代及び高齢者の健康づくり作業部会		21・22
高齢者の介護予防事業の充実		22
第2次健康づくり計画【別冊】		22
子育て世代包括支援センター事業		36
「子ども食堂」への支援	障害・社会福祉課	38
障害福祉に関する学習会等の推進		43
障害者の積極的な地域交流の推進		43
長寿楽園大学、高齢者クラブにおける趣味の教室などの充実	高齢・介護福祉課	18
介護予防事業リーダーによるわっはっは教室		22
介護予防元気度アップ事業の実施		22
認知症サポーター養成教室		22
介護予防総合通所型事業		22
地域子育て支援センター事業	子育て支援課	36
利用者支援事業		36
ファミリー・サポート・センター事業		36
育児リフレッシュ事業等の充実		36
放課後児童クラブの充実		38
国際交流員(CIR)による語学支援	交通貿易課	44
料理教室・伝統行事などを取り入れた国際理解の充実		44
友好都市(常熟市・昌寧郡)との相互交流(派遣・受入)事業		45
語学教室		45
交流・体験事業		45
国際理解・異文化理解事業		45
地区・地域におけるスポーツ活動などへの青壮年の参画	スポーツ課	16
スポーツ・レクリエーション活動への支援		20
広報紙・ホームページによるスポーツ情報の発信		20
川内川を生かしたスポーツ大会の開催		21
スポーツ教室の開催		21

事業計画の所管など

事業計画	団体等	事業など 記載ページ
スポーツ関係団体との連携及び活動への支援	スポーツ課	21
スポーツ推進委員活動への支援		21
スポーツ合宿誘致活動の推進		21
スポーツ少年団活動への支援		39
自主防災組織の防災訓練指導	警防課	49
普通救命講習会の実施		49
消防局防災研修センターの利用による防火防災指導	予防課	49
幼年・少年消防クラブの防火指導		49
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の充実	学校教育課	38
わくわく薩摩川内土曜塾(基礎基本講座)		38
小中一貫教育推進事業		39
薩摩川内元気塾事業		39
甌アイランドウォッチング事業の推進		39
学校教育における道德教育の場での福祉体験学習の拡充		43
児童生徒の発達や障害の状況に応じた教育内容・方法の改善		43
全教育活動を通した、障害児に対する正しい理解を深めるための学習の推進		43
心の教育や人権教育の一層の充実		43
特殊学級、特殊教育から特別支援教育への移行と個に応じた指導		43
外国語指導助手(ALT)による語学支援		44
小学校英語指導支援員(EST)による指導支援		44
日中友好薩摩川内市・常熟市青少年スポーツ等交流事業の推進		45
日韓友好薩摩川内市・昌寧郡青少年スポーツ等交流事業の推進		45
青少年フレッシュ体験事業の実施	社会教育課	13・14
ジュニア・リーダー研修会などの実施		13
イン・リーダー研修会の実施		14
家庭教育推進事業		14・30・ 38・51・52
市民大学の高齢者を対象とした講座の充実		18
高齢者団体指導者養成事業の充実		18
高齢者クラブによる学校や社会教育団体との交流事業の充実		19
さつませんだい学校応援団(学校支援ボランティア)事業の充実		19・28・38
市民大学講座の充実		23
中央公民館等の適切な補修・維持管理		26
人材バンク「すてきびと」の充実・活用の促進		27・28
社会教育団体指導者講習会の受講促進		27
青少年育成事業		30・38・39
地域学校協働活動		30・38
高齢者等向けパソコン・タブレット研修用備品の整備		33
公民館等施設改修保全計画		33
中央公民館講座等事業		33

事業計画の所管など

事業計画	団体等	事業など 記載ページ
地域公民館講座等事業	社会教育課	33
わくわく薩摩川内土曜塾		38
少年愛護センター事業		39
青少年フレッシュ体験事業		39
各種講座、教室等への障害者の参加促進及び受入れ体制の整備		43
公民館及び生涯学習推進機関での福祉等に関する学習機会の拡大		43
地区コミュニティ協議会などへの出前講座の実施	文化課	14
各地域の郷土芸能保存団体の活動や後継者育成の支援		16
薩摩国分寺秋の夕べ等の文化イベントの開催		28
清色城跡の保存整備の実施		54
入来麓伝統的建造物群保存地区の修理修景事業や街なみ環境整備事業の実施		54
日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群「麓」を歩く～」		54
川内川流域の古墳等の調査の実施		54
川内大綱引の調査報告書を刊行し、更なる保存・活用の実施		54
文化財の保存活用制度整備の推進		54
川内歴史資料館、まごころ文学館等の整備及び利用の促進		55
各地域の郷土芸能等の保存・伝承活動の推進		55
夏・冬のアドベンチャー事業の実施	少年自然の家	13
リフレッシュin寺山の実施		13
少年自然の家での体験活動		47
図書館教養講座などの開催	中央図書館	23
薩摩せんだい図書館フェスタ開催		38
サマーミュージックフェスティバルin薩摩川内の実施	まちづくり公社	14
創作体験事業の実施		14
公社杯ソフトバレーボール大会の開催		21
まちづくり公社によるまちづくり交流事業の実施		28
薩摩川内市ボランティアセンターの運営	社会福祉協議会	28
福祉教育・ボランティア講座の開催		28
ボランティア講座の開設		36
ボランティアセンターの発展・強化		36
社会福祉・ボランティアフェアの開催		36
災害ボランティアセンター体制の確立		49

生涯学習推進計画策定委員会委員名簿

氏 名	推 薦 団 体 な ど	備 考
金 子 満	鹿児島大学代表	委員長
新 満 裕 子	薩摩川内市男女共同参画女性人材バンク登録者	副委員長
舞 田 ひ ろ み	薩摩川内市校長会代表	
樗 木 孝 治	薩摩川内市文化協会事務局代表	
山 田 島 基 夫	育英地区コミュニティ協議会会長	
木 下 満	川内地区コミュニティ協議会会長	
別 府 明 秀	上手地区コミュニティ協議会会長	
大 村 恵 美 子	女性チャレンジ委員会代表	任期:H30年10月23日 ～R1年10月27日
古 賀 玉 樹	川内地区コミュニティ協議会会長	任期:H30年10月23日 ～R1年10月27日
山 下 涼 子	薩摩川内市校長会代表	任期:H30年10月23日 ～R2年3月31日

市の木・花・鳥・魚（平成17年2月13日制定）

★市木 クロガネモチ

『高く伸びる木・常緑の葉は、
市の発展を象徴』



★市花 カノコユリ

『初夏に咲くピンクの花は、
市民の優雅さと情熱を、
そのたくましい生命力は市民の活力を象徴』



★市鳥 メジロ

『甲高く活気あふれる鳴き声は、
市民の力強さと明朗性を象徴』



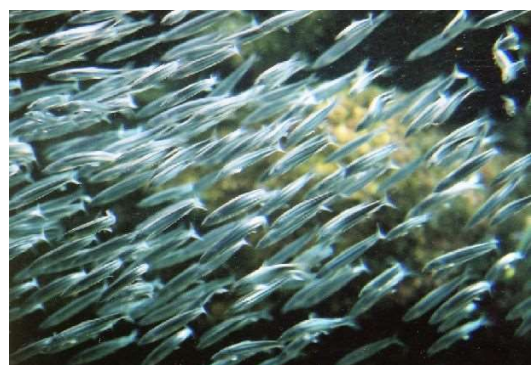
★市魚（川） アユ

『激流ともいえる流れの早い流心に
定位する姿は、何事にも負けない不屈
の精神を、また、集団で行動する姿は、
市民の協調融和の精神を象徴』



★市魚（海） キビナゴ

『小さな体ですばやく回遊する姿は
市民の力強さと明朗性を、
美しい姿は市民の豊かな心を象徴』



令和2年6月発行

編集・発行 薩摩川内市 企画政策部 地域政策課（生涯学習推進本部事務局）

コミュニティ・生涯学習グループ

〒895-8650 鹿児島県薩摩川内市神田町3番22号

TEL 0996-23-5111

FAX 0996-20-5570

<http://www.city.satsumasendai.lg.jp>

E-mail community@city.satsumasendai.lg.jp